

1 年生

## 1、教養科目

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 有川 博 担当形態： 単独
科 目	教養科目 - 日本国憲法		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)立憲主義・憲法の基本原則についての理解を深める。 1) 立憲主義についての理解を深める 2) 国民主義についての理解を深める 3) 平和主義についての理解を深める (2)基本的人権についての理解を深める。 1) 法の下での平等についての理解を深める 2) 社会権についての理解を深める 3) 自由権についての理解を深める (3)三権分立・統治機構の役割についての理解を深める 1) 国会・内閣・裁判所についての理解を深める 2) 財政・納税・地方自治についての理解を深める		
授業の概要	国民の基本的人権の話を中心に据えながら、日本国憲法全般について、国内 や海外の最近のニュースや裁判例、欧米の歴史などを織りまぜて解説。講義 を通して、憲法は何のために制定されるのか（立憲主義）、憲法は誰のための ものか（国民主権）、現代社会でなぜ格差が拡大するのか（資本主義と競争原 理）、憲法は格差社会を生きるためにどのような解決策を講じようとしている か（基本的人権の保障・社会権）などについての理解を深め、社会を見つめ る力を養う。		
授業計画			
第 1 回： はじめに——なぜ格差は生じるか、格差社会を生きるために 第 2 回： 「国民主権」の意味、女性が天皇になるためには 第 3 回： 憲法第 9 条と「平和主義」、安全保障関連法の成立と「立憲主義」 第 4 回： 「基本的人権」の保護・人権と人権の衝突 第 5 回： 法の下での平等と 18 歳選挙権、憲法から考えるいじめ問題 第 6 回： 君が代を歌う自由・歌わない自由、女性再婚禁止期間違憲判決 第 7 回： 表現の自由と報道・出版の自由、音楽・出版と著作権 第 8 回： 憲法と刑法・刑事訴訟法、罪と罰と罪刑法定主義 第 9 回： 自白と証拠能力、推定無罪 第 10 回： 生活保護費の支給停止と生存権、環境権と放射性廃棄物 第 11 回： 国会と法律、労働権と改正労働者派遣法 第 12 回： 議院内閣制と衆議院の解散、情報公開制度と特定秘密保護法 第 13 回： 司法権の独立、裁判員制度と陪審制 第 14 回： 財政と課税法律主義、憲法第 90 条と機密費・防衛費 第 15 回： おわりに—— 憲法は誰のもの 定期試験			

テキスト	石本伸晃著「世の中がわかる憲法ドリル」(平凡社)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布します。
学生に対する評価	受講姿勢 50%、定期試験 50% 受講姿勢の評価には、練習問題に対する取組み・発表等についての評価を含む。

授業科目名： 体育講義	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 木戸 直美
			担当形態： 単独
科 目	教養科目 - 体育		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)健康の概念について理解し、「健康」「身体」の認識をより深める。 (2)現代社会において、健康維持・増進、及び豊かなライフスタイルを構築するための方法を理解し、それらについて主体的に実行することができる。		
授業の概要	<p>これまで、健康についてあまり意識しなくても、特に問題はなかったのではないだろうか。しかし、生涯における健康の獲得は、長期的な自己管理が重要となる。</p> <p>この授業では、「健康とは何か？」及び「身体とは何か？」について言及し、自己の健康維持・増進、及び豊かなライフスタイルを構築する上での知識や主体的行動力を身に付けることを学ぶ。</p>		
授業計画			
<p>第 1 回： ガイダンス：授業の内容・進め方について</p> <p>第 2 回： 健康の概念</p> <p>第 3 回： 健康と体力（1）</p> <p>第 4 回： 健康と体力（2）</p> <p>第 5 回： 健康の三要素＜栄養・運動・休養＞（1）</p> <p>第 6 回： 健康の三要素＜栄養・運動・休養＞（2）</p> <p>第 7 回： 健康の三要素＜栄養・運動・休養＞（3）</p> <p>第 8 回： 生活活動調査と METS</p> <p>第 9 回： 身体意識とは？</p> <p>第 10 回： 身体意識と姿勢</p> <p>第 11 回： 健康と自己調節作用①</p> <p>第 12 回： 健康と自己調節作用②</p> <p>第 13 回： 心とからだの健康</p> <p>第 14 回： 現代とスポーツ</p> <p>第 15 回： 現代生活における課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	<p>始めの一步 にここに食べ物ゲーム（一粒書房）</p> <p>一歩一歩進もう「健康」ワークブック（一粒書房）</p>		
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	授業参加（態度・積極性・協調性）30%、筆記テスト 50%、振り返りシート 10%、レポート 10%から総合的に判断する。		

授業科目名： 体育実技	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木戸 直美
			担当形態： 単独
科 目	教養科目 - 体育		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)運動を楽しむための基礎的な技能を身につける。 (2)保育者として必要な運動遊びに関する基礎的な知識や技能を身につける。 1) 基本の運動がスムーズに行える。 2) 基本の運動をアレンジして発展的に運動を行える。 3) 子どもの運動遊びに関する知識や技能を習得している。 4) 子どもと運動遊びを楽しめる多様な動きや表現力を習得している。		
授業の概要	運動を楽しみ、積極的に他者と関わりながら創造的に動く。将来的には子どもたちと一緒に運動遊びを楽しめるよう、多様な動き・表現、基礎体力を身につける。		
授業計画			
第1回： オリエンテーション 第2回： 基本の運動とその応用 (1) 歩こう走ろう 第3回： 基本の運動とその応用 (2) 跳ぼう転がろう 第4回： 基本の運動とその応用 (3) 伝承遊び 第5回： 遊具を使った運動 (1) なわ 第6回： 遊具を使った運動 (2) ボール 第7回： リズムに合わせた運動 (1) グループ活動 (大枠の確認) 第8回： リズムに合わせた運動 (2) グループ活動 (細部の確認) 第9回： リズムを使った運動 (3) グループ発表 第10回： グループ発表振り返り 望ましい指導とは 第11回： 遊具を使った運動 (3) バルーンの基本 第12回： 遊具を使った運動 (4) バルーンを用いたグループ発表 第13回： 創作活動 (1) 発表会準備 (大枠の確認) 第14回： 創作活動 (2) 発表会準備 (細部の確認：作りこみ) 第15回： 創作活動 (3) 発表会準備 (細部の確認：動きこみ) グループ作品発表会 (まとめ)			
テキスト	始めの一步 ここに食べ物ゲーム (一粒書房) 一歩一歩進もう「健康」ワークブック (一粒書房)		
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	授業参加 (態度・積極性・協調性) 30%、筆記テスト 50%、振り返りシート 10%、レポート 10%から総合的に判断する。		

授業科目名： 英語コミュニケーション		教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 甘糟 節子
		担当形態： 単独		
科 目		教養科目 - 外国語コミュニケーション		
授業の到達目標 及びテーマ	保育士、幼稚園教諭として必要な英語の習得。 外国文化、多様性を重んじる姿勢の育成。 外国の言葉のみならず、様々な方面の興味を引き出す。			
授業の概要	外国人の子どもの保育に必要な英語の修得。 文化の違いの理解を深めるための知識の修得。 保育の現場での児童英語活動に必要な英語の修得。 全体目標：英語に親しみを持ち、異文化に興味を持った保育士の養成			
授業計画				
第 1 回： オリエンテーション、Ice Breaker、自己紹介				
第 2 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 3 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 4 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 5 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 6 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 7 回： 名画鑑賞 (The Sound of Music)				
第 8 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 9 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 10 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 11 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 12 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 13 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 14 回： 名画鑑賞 (Mary Poppins)				
第 15 回： まとめ				
第 16 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 17 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 18 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 19 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 20 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 21 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 22 回： 名画鑑賞 (Charlotte' s Web)				
第 23 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 24 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 25 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 26 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 27 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				
第 28 回： 児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺				

第 29 回： 名画鑑賞 (Roman Holiday) 第 30 回： まとめ 定期試験	
テキスト	保育の英会話 (萌文書林) 英語が苦手でもできる！子どもと一緒に楽しむ英語 (大学図書出版)
参考書・参考資料等	児童英語教育を学ぶ人のために (世界思想社) 保育英語検定テキスト (本の泉社)
学生に対する評価	受講態度 50%、定期試験 50%

授業科目名： 子どもと自然	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 吉岡 景昭
			担当形態： 単独
科 目	教養科目 - 生活		
授業の到達目標 及びテーマ			
授業の概要	<p>教科書を参照しながら授業を進め、適宜、参考資料（コピー）を配布し、参考文献を回覧する。</p> <p>この授業は子どもたちが身の回りの自然に関心を持ち、そして、自然に親しみ、同時に畏怖の念を持つことによって健やかで情緒豊かな人へと育ち上がっていくことの手助けができるようになることを目的とする。</p>		
授業計画			
<p>第1回： 第1章 自然について 自然とはどのようなものなのか、自然の要素、自然の恵みと怖さについて</p> <p>第2回： 第2章 天文・地象・気象 1. 太陽・月と地球との関係</p> <p>第3回： 2. 地球の内部で起きていること</p> <p>第4回： 3. 地球の気象</p> <p>第5回： 4. 太陽系 5. 宇宙について</p> <p>第6回： 第3章 生物について 1. 生物とは 1) 生物の特質</p> <p>第7回： 1. 2) 細胞について 2) 種について</p> <p>第8回： 2. 生物の分類</p> <p>第9回： 3. ウィルスについて 4. 生物の多様性</p> <p>第10回： 1) 体の構造</p> <p>第11回： 4. 2) 生活空間と生き方</p> <p>第12回： 5. 生物同士の繋がり 1) 種の間関係</p> <p>第13回： 5. 2) 生物群集に見られる構造</p> <p>第14回： 第4章 生態系について</p> <p>第15回： 授業の総ざらい</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	<p>ニューステージ 新生物図表（浜島書店）</p> <p>ニューステージ 新地学図表（浜島書店）</p>		
参考書・参考資料等	適宜（新聞の記事を含む）		
学生に対する評価	レポート（50%）、定期試験（50%）		



## 2、領域及び保育内容の指導法に関する科目

授業科目名： 子どもと人間関係	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 五十嵐 淳子
			担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場 で人との関わりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達の特徴を踏まえ た、人との関わりを育てる保育者の役割と援助について習得する。一人ひと りの子どもの気持ちに寄り添い、関わっていくことはどういうことかを捉え、 人と関わる力を養う「人間関係」の領域について理解し保育実践力を養うこ とを目指す。		
授業の概要	子ども達の「人と関わる力」を育てるための集団づくりについて、実践例 や映像等を使用しながら考えを深め乳幼児期の人間関係の発達特徴を踏まえ た保育実践のあり方を指導する。幼児の「人と関わる力」がどのように育ま れていくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶 を目指す。		
授業計画			
<p>第1回： オリエンテーション～領域「人間関係」とは～</p> <p>第2回： 領域「人間関係」のねらいと内容</p> <p>第3回： 3歳未満児の人と関わる力の育ち</p> <p>第4回： 3歳以上児の人と関わる力の育ち</p> <p>第5回： 子どもの言葉と人間関係</p> <p>第6回： 子どもの遊びと人間関係（映像使用）</p> <p>第7回： 人との関わりを育てる支援のあり方</p> <p>第8回： 子どもの人間関係を育む保育者の役割</p> <p>第9回： 子どもの人間関係の広がり（園生活や地域へ）</p> <p>第10回： 乳幼児期の自立心や協同性の育ち</p> <p>第11回： 幼児期に育みたい人と関わる力</p> <p>第12回： 人と関わる力の育ちと環境との関係性～事例を通して考える～</p> <p>第13回： 道徳性と規範意識の芽生え</p> <p>第14回： 保育者と保護者の人間関係</p> <p>第15回： 子どもの人間関係をめぐる現代的課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	五十嵐淳子「地域とつながる子育て支援 保育者養成校と自治体の連携か ら」（大学図書出版）		
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所 保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保 連携型子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40%）、課題提出（10%）、個人発表（40%）、受講態度（10%）		

授業科目名： 子どもと環境	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石井 久美子 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>乳幼児を取り巻く様々な環境の重要性について知り、乳幼児の発達に及ぼす影響や課題について知識や理解を深める。</p> <p>乳幼児期の終わりまでに育みたい姿を実現するために必要な望ましい環境構成のあり方や指導に必要な方法について理解する。</p> <p>環境との関わりについて、幼児の特性を理解し体験させたい内容に応じた教材の活用法を用いて保育の構想に役立てることができる。乳幼児の生活と関連のある事象に興味や関心を持ち、具体的に取り上げ説明できるようになる。</p>		
授業の概要	<p>乳幼児期は環境を通して行う教育が重要であることを踏まえ、領域「環境」のねらいや内容について学ぶ。また、乳幼児が周囲の様々な「環境」とどのように関わり発達していくのかについて事例や映像等を通して理解を深め、乳幼児を取り巻く身近な環境との関わり方を考えていく。</p>		
授業計画			
<p>第 1 回： 授業ガイダンス、子どもを取り巻く環境とは</p> <p>第 2 回： 現代社会における環境の現状（映像使用）</p> <p>第 3 回： 領域「環境」とは</p> <p>第 4 回： 環境に関わる力を育てる</p> <p>第 5 回： 子どもと人的環境との関わり</p> <p>第 6 回： 子どもと物的環境との関わり</p> <p>第 7 回： 子どもと自然環境との関わり</p> <p>第 8 回： 子どもと生活（文字や形、数との関わり）</p> <p>第 9 回： 子どもと生活（季節や法則との関わり）</p> <p>第 10 回： 子どもと生活（行事や地域との関わり）</p> <p>第 11 回： 園での生活と環境（保育室・園庭・園外保育）</p> <p>第 12 回： 子どもにとっての安全な環境づくり</p> <p>第 13 回： 環境としての保育者の役割</p> <p>第 14 回： 主体的に関わるための環境づくり</p> <p>第 15 回： まとめ：環境を通して行う保育とは</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	保育実践を生かす保育内容「環境」（保育出版社）		
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

授業科目名： 子どもと言葉	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小林 恵 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「言葉」のねらい及び内容と子どもの言葉を育てる保育者の役割や環境について理解する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、言葉の感覚を豊かにする保育者の役割や援助の仕方を身につける。領域「言葉」の特性に応じた現代の課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる力を養う。言葉を育て想像力を豊かにする児童文化財の意義や内容について理解する。		
授業の概要	領域「言葉」について構造的に捉えた上で、乳幼児期の言葉の獲得過程や言葉の意義と機能について理解し、保育者としてどのように関わっていけばよいのかを事例及び映像等を通して学ぶ。豊かな感覚や言葉を育むために必要な基礎的知識を身につけることを目指していく。		
授業計画			
第 1 回： 言葉とは何か 第 2 回： 領域「言葉」の内容理解 第 3 回： 乳幼児期の言葉の教育 第 4 回： 乳幼児期における言葉の発達①0 歳～2 歳 第 5 回： 乳幼児期における言葉の発達②3 歳～6 歳 第 6 回： 生活体験と言葉 第 7 回： 遊びと言葉 第 8 回： 感動体験と言葉 第 9 回： 言葉の発達を促す児童文化財（言葉の発達を促す教材の応用） 第 10 回： 文字との出会い 第 11 回： 子どもの育ちを支える保育者の言葉（映像を使用） 第 12 回： 言葉の関わりに配慮を要する子ども（映像を使用） 第 13 回： 保幼小の連携と言葉 第 14 回： 幼児期の言葉の課題 第 15 回： まとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと表現	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 森川 みゆき
			担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容について全体構造を理解する。領域「表現」に関わる子どもが自分の思いや意見をもって主体的に取り組むことができる表現活動について学び理解する。子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。表現活動における知識や技法を習得し、より豊かな表現活動につなげていくことができる。		
授業の概要	領域「表現」に示される子どもの豊かな感性や表現を育むために、保育者がどのように関わっていくのか実践例や映像等を通して具体的に学習する。子どもが生活の中で様々な表現方法を育んでいくための知識や援助のあり方を身につける。		
授業計画			
第 1 回： 保育における領域「表現」とは 第 2 回： 表現の発達 第 3 回： 表現を育むということ (身体による表現) 第 4 回： 表現を引き出す援助 (身体による表現) 第 5 回： 表現を育むということ (音楽による表現) 第 6 回： 表現を引き出す援助 (音楽による表現) 第 7 回： 表現を育むということ (造形による表現) 第 8 回： 表現を引き出す援助 (造形による表現) 第 9 回： 表現力を豊かにするワーク (身体による表現) 第 10 回： 表現力を豊かにするワーク (音楽による表現) 第 11 回： 表現力を豊かにするワーク (造形による表現) 第 12 回： 表現力を豊かにするワーク (総合的な表現) 第 13 回： 表現を育む援助指導 (指導計画案の基本) 第 14 回： 表現を育む援助指導 (指導計画案の作成) 第 15 回： 領域「表現」をとりまく問題 定期試験			
テキスト	保育内容 領域 表現 (わかば社)		
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」(平成 29 年度告示)、厚生労働省「保育所保育指針」(平成 29 年度告示)、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」(平成 29 年度告示)、適宜プリント(資料等)を配布する。		
学生に対する評価	定期試験 (50%)、受講態度 (20%)、課題提出 (30%) により総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと音楽A	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田 伸枝・洞庭容子 加藤 瑞恵・山崎 未貴 江上 規子 担当形態： クラス分け
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に示されたねらい及び内容を踏まえ、保育の現場において役立つピアノ実技と音楽理論、指導法を習得する。童謡の弾き歌いを中心に音楽に自ら親しみ楽しさを味わうことができる。子どもの発達段階において音楽表現の楽しさを伝えられるような実践力を身につける。		
授業の概要	領域「表現」に関わる育みたい資質能力を理解し、示された領域「表現」の背景となる専門領域と関連させて音楽実技の基礎的な知識や指導法を身につける。子ども一人ひとりの発達に即した、保育における音楽表現の楽しさが伝わるようなピアノ曲や歌唱曲をグループで話し合ったり、実習も視野に入れたりした実践的な学びが実現できるようにする。		
授業計画			
第1回：	オリエンテーション・・・領域「表現」のねらいと内容を理解し、音楽表現との関連性について知る。課題曲と授業形態について説明		
第2回：	かたつむり（季節の歌を弾いたり歌ったりして楽しむことができるように練習する。）		
第3回：	大きなくりの木の下で（身体の諸感覚を通して表現の喜びを味わえるように練習する。）		
第4回：	むすんでひらいて（言葉の意味を理解しピアノや歌に合わせて手遊びができるような力を養う。）		
第5回：	こいのぼり（行事の歌を通し、情景や心情を表現する楽しさを味わえるような弾き歌いの力を身につける。）		
第6回：	おかえりのうた（園生活を想定して歌いながらピアノを弾く。）		
第7回：	手をたたきましよう（様々な場面で使える歌と演奏法を学び、表現活動を楽しめるように練習する。）		
第8回：	うみ（季節の歌を情景を想定しながら歌うことで子ども自身の表現力を養えるように弾く。）		
第9回：	きらきら星（英語の歌詞でも歌うことを楽しめるように弾き歌いをする。）		
第10回：	シャボン玉（情景が伝わるようなメロディを楽しみながら演奏技法を高める。）		
第11回：	たなばたさま（行事の歌を用いて言葉の意味や情景が伝わるように弾き歌いをする。）		
第12回：	山の音楽家（簡易な楽器を使って乳幼児の発達に即した分担奏を考え練習する。）		
第13回：	森のくまさん（輪唱の仕組みについて知りリズムカルな言葉遊びを楽しめるように弾く練習をする。）		
第14回：	おべんとう（園生活を想定して歌いながらピアノを弾く。）		

- 第 15 回： まとめ（事前に提示された課題曲の確認と練習。前期の振り返り。）  
実技試験
- 第 16 回： おはようのうた（園生活の中での生活の歌を歌いながら弾き、子どもが楽しく歌えるような力を身につける。）
- 第 17 回： はをみがきましょう（この歌を通して「歯みがき」に興味や関心が持てるように演奏する）
- 第 18 回： さよならのうた（園生活の中での生活の歌を歌いながら弾き、子どもが楽しく歌えるような力を身につける）
- 第 19 回： アイアイ（輪唱の仕組みについて知りリズムカルな言葉遊びを楽しむことができるように弾く）
- 第 20 回： おもちゃのチャチャチャ（言葉の表現を楽しみながら歌える奏法を身につける）
- 第 21 回： おんまはみんな（リズムカルな歌を楽しく弾くことによって子どもが豊かな表現方法を身につけることができるように練習する。）
- 第 22 回： おばけなんてないさ（子どもが興味を持つ歌の特性を考えながらイメージ豊かに弾いたり歌ったりする）
- 第 23 回： すうじのうた（数量に関心を持てる方法や技能を身につけリズムカルに弾く）
- 第 24 回： 夕やけこやけ（情景や心情が浮かびそれを表現できる演奏方法を身につける）
- 第 25 回： やきいもグーチーパー（簡単な歌遊びを通してピアノに合わせ身体表現ができるように弾く）
- 第 26 回： ドレミの歌（表現することの楽しさを実感しながらより豊かな表現力が発揮できるように練習する。）
- 第 27 回： ジングルベル（曲調を捉えながら歌唱スキルの発達を促せるように弾く）
- 第 28 回： お正月（行事の歌に親しみ、表情豊かに歌えるように演奏する）
- 第 29 回： 思い出のアルバム（歌詞からイメージできる情景を思い浮かべながら豊かな感性を育むことができるような演奏法を身につける）
- 第 30 回： まとめと復習  
実技試験

テキスト	幼児のための音楽教育（教育芸術社）
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）
学生に対する評価	実技試験（60%）授業態度（20%）小テスト（20%）から総合的に評価する。

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 五十嵐 淳子 担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目） 専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	①保育の基本となる保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づき、保育内容を理解する。②保育内容の歴史的変遷について学ぶ。③保育内容の展開として、子どもの発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を学ぶ。④養護と保育の一体化について保育実践につなげて理解する。⑤保育の多様な展開について学び、今日的課題を把握する。		
授業の概要	保育内容総論は、各論としてとらえられる保育内容を総合的に把握して理解するものである。子どもの育ちを支える保育者として求められる知識と保育技術、その他保育内容に関わりことを総合的に学び身につけることを目標とする。		
授業計画			
<p>第1回： 保育の基本と保育内容（保育内容とは、保育の構造・構成、保育内容の総合的把握）</p> <p>第2回： 保育の特質（幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育内容の考え方、幼稚園教育の特質－幼稚園教育要領、保育所保育指針の特質－保育所保育指針）</p> <p>第3回： 保育内容の変遷（戦前・戦後の保育内容、幼稚園創設と恩物による保育の開始、幼稚園の普及と保育内容の改編、幼稚園教育の確立 ※含む保育所）</p> <p>第4回： 幼児の発達と生活（幼児の発達、年齢ごとの発達、幼児の生活、保育内容との関連）</p> <p>第5回： 環境と保育内容（幼児にとっての遊び、遊びの中で学んでいること幼児理解と保育内容）</p> <p>第6回： 遊びによる総合的な保育（遊びを通しての総合的指導、遊びを支える遊びの援助）</p> <p>第7回： 幼児理解と保育内容（カウンセリングマインド（子どもと寄り添う）、子どもを見る目、記録することによる幼児理解）</p> <p>第8回： 保育内容と保育の計画①（保育における計画、保育の計画の考え方、指導計画の考え方、具体的な指導計画）</p> <p>第9回： 保育内容と保育の計画②（幼稚園における教育課程と指導計画の実際）</p> <p>第10回： 保育内容と保育の計画③（保育所における保育課程と指導計画の実際）</p> <p>第11回： 保育内容と保育の展開（幼稚園・保育所における指導の課題、保育形態（形態自在）、行事の捉え方）</p> <p>第12回： 保育の評価と記録（評価とは何か、保育と記録、自己評価）          保育者の役割（保育者の使命と役割、保育者の人間性、受容と共感、保育者の資質の向上）</p> <p>第13回： 保育内容における現状と課題（小学校教育との関連、幼保小や認定子ども園との関連、家庭や地域との関連）</p> <p>第14回： 今日の保育の課題と保育内容（生活環境の変化と保育内容）</p> <p>第15回： 定期試験</p>			

テキスト	新版 保育内容総論（大学図書出版）
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）
学生に対する評価	定期試験（40%）、受講態度（10%）、課題提出（10%）、個人発表（40%）



授業科目名： 保育内容（人間関係）の 指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 五十嵐 淳子 担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）		
	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「人間関係」のねらいと保育内容を踏まえ、子どもの姿と指導計画に基づいた保育実践ができるようになることを目標とする。子どもの発達にふさわしい「人間関係」の育ちについて具体的な保育の構想や実践する方法を身につける。模擬保育やロールプレイなどの振り返りを通して保育を改善する力を修得する。		
授業の概要	本講義では、一人ひとりの子どもの発達を見通した保育の展開を目指し、子どもの実態や生活に即した領域「人間関係」に視点をあてた指導計画の作成に基づき、模擬保育の実際の事例を通して保育実践ができるように理解を深める。		
授業計画			
第 1 回： オリエンテーション 授業の進め方、保育内容指導法「人間関係」について 第 2 回： 保育内容領域「人間関係」に視点をあてた指導計画と保育実践 第 3 回： 指導計画の実際例 第 4 回： 指導案の書き方 ねらいと内容 第 5 回： 指導案作成 子どもの活動と環境構成 第 6 回： 指導案作成 保育者の援助及び留意点 第 7 回： 指導計画の検討と実践展開 第 8 回： 指導計画に基づいた保育実践とは 第 9 回： 保育実践の方法－保育場面の映像を通して～グループ討議～ 第 10 回： 模擬保育の検討－映像を見ながら子どものかかわりの事例を見て考える 第 11 回： 模擬保育の発表－グループ発表を通して様々な保育方法のあり方を知る 第 12 回： 模擬保育の振り返り－保育カンファレンスを通して～保護者とのかかわりにおけるクレームの場면을映像を見ながらロールプレイング～ 第 13 回： 保護者懇談会のロールプレイ～映像を通して事例から考える～ 第 14 回： 幼小・地域との連携・交流 第 15 回： 保育者の実践力と質の向上に向けて 定期試験			
テキスト	保育内容 人間関係（一藝社）		
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40%）、受講態度（10%）、課題提出（10%）、個人発表（40%）		

授業科目名： 保育内容（言葉）の 指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小林 恵 担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目） 専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、言葉の意義について捉え、乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、乳幼児の言葉の育ちを支える保育者としての意義について理解を深め保育実践力を養う。また、乳幼児の豊かな言葉が育まれる保育教材を研究し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。子どもが体験し身につけていく方法や指導上の留意点について映像資料や具体的な資料を用いて理解する。		
授業の概要	保育現場において子どもたちが様々な言語教材に親しみながら豊かな言葉やイメージが広がり育まれるよう環境のあり方や模擬保育に向けた具体的な指導方法について研究し実践力がつくようにする。子どもの発達に即した領域「言葉」のねらいや内容を踏まえた保育実践力を養うことを目指すために、具体的な事例や映像などを使用したり、グループでディスカッションしたりして保育実践ができるように理解を深めていく。		
授業計画			
第 1 回： 乳幼児期の特徴・言葉の発達過程について～映像資料や事例を通して、幼児の姿について理解を深める～（グループ討議） 第 2 回： 指導者として幼児の言葉環境に必要な心得や準備～具体的にどのようなことか事例を基に考える～（グループ討議） 第 3 回： 幼児の文字との出会いや獲得過程について～幼児のあらゆる生活場면을想定し考える～（グループ討議） 第 4 回： 幼児が文字で伝える楽しさを育む援助として、遊びを通して書く文字の具体的な場面について～映像資料などを参考に確認する～（グループ討議） 第 5 回： 言葉を育む環境構成と援助～けんかやトラブルの場面での保育者の役割を具体例や映像機器を通して学ぶ～（グループ討議） 第 6 回： 乳幼児を対象とする絵本・紙芝居の選び方と読み方の工夫 第 7 回： 絵本・紙芝居の読み聞かせの実践 第 8 回： 言葉に対する感覚を豊かにする保育～しりとり、反対ことば等のさまざまな言葉遊びについての研究～（グループ討議） 第 9 回： 言葉に対する感覚を豊かにする保育～しりとり、反対ことば等のさまざまな言葉遊びについての実践～（グループ討議） 第 10 回： エプロンシアター・パネルシアターの活用方法と留意点について（グループ毎に発表） 第 11 回： 人形劇・ペープサート・素話の活用方法と留意点について 第 12 回： 言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊びー準備 第 13 回： 言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊びー準備			

第 14 回： 言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊びー実践（発表）

第 15 回： 模擬保育の振り返り（反省と課題）

定期試験

テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度・課題提出・表現技術（40%）から総合的に評価する。

### 3、教育の基礎的理解に関する科目

授業科目名： 教育原理	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 田口 賢太郎 担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（教育の基礎的理解に関する科目）		
	専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。教育に関する様々な思想、それらと多様な教育理念や実際の教育及び学校との関わりを理解し、現代教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解する。</p>		
授業の概要	<p>最古の学問といわれる哲学が中心関心としていたのが教育についてである。したがって、教育への人々の関心は古い。常に、人間は教育に興味を持っていたといえる。しかし、にもかかわらず、教育にまつわる問題が解決を見たことは一度もない。それは、教育の問題が常に現代的なものであり、また、課題含みのものとして存在しているためであろう。教育に携わるものとして、思想、歴史、制度、経済、様々な観点から教育を思索し、語るための基礎を得る。</p>		
授業計画			
<p>第1回： イントロダクション：講義概要の説明、授業の方法、入門的な教育学の話題を提示          第2回： 教育とは何か          第3回： 西洋の教育の歴史1 古代ギリシア・古代ローマ          第4回： 西洋の教育の歴史2 西洋キリスト教思想、中世          第5回： 西洋の教育の歴史3 初期近代ロック、ルソー          第6回： 西洋の教育の歴史4 ペスタロッチ、フレーベル          第7回： 西洋の教育の歴史5 デューイ、モンテッソーリ          第8回： 日本の教育の歴史1 近世～戦前の日本の教育          第9回： 日本の教育の歴史2 戦後の日本の教育          第10回： 現代の教育1 日本の教育制度 文部省、教育基本法          第11回： 現代の教育2 諸外国の教育制度 アメリカ、フランス、ドイツ、中国          第12回： 現代の教育3 教育の実践と理論、カリキュラム          第13回： 現代の教育4 教育評価とテスト          第14回： 現代の教育5 教師の専門職生徒教員評価          第15回： まとめ、過去から現代につながる教育地平          定期試験</p>			

テキスト	教育の質を高める教育原理（大学図書出版）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	小テスト（70%）、学習参加態度（20%）、課題提出（10%）を定期試験に替え、総合的に評価する。

授業科目名： 保育・教職論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 坂本真理子・船田鈴子 担当形態： オムニバス
科 目	専門教育科目（教育の基礎的理解に関する科目）		
	専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	保育者の職務を理解し、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、幅広い資質を身につける。また、保育者の制度的な位置づけと社会的な意義について理解し、義務と倫理について理解する。		
授業の概要	保育者としてのあるべき姿とその実際について、具体的な事例（学生の実習体験等も含む）を通し考察し、求められる保育者像とその意義や役割の理解を深める。また、現代社会が求める保育者の資質や能力、職務内容等について習得する。		
授業計画			
第 1 回： 保育・教育とは－「保育者になる」ということ－（坂本） 第 2 回： 保育者の仕事－保育者の 1 日を知る－（坂本） 第 3 回： 保育という仕事の実態（1）（坂本） 第 4 回： 保育という仕事の実態（2）（坂本） 第 5 回： 保育者の役割（坂本） 第 6 回： 保育者の倫理（坂本） 第 7 回： 職務内容の理解（1）（坂本） 第 8 回： 職務内容の理解（2）（坂本） 第 9 回： 保育者の専門性－保育者に求められる能力－（船田） 第 10 回： 保育者の専門性－保育カンファレンスの事例を通して－（船田） 第 11 回： 保育者の専門性－保育者としての学びとキャリア形成－（船田） 第 12 回： 地域の中の保育者の役割（船田） 第 13 回： 学びあう保育者－チーム保育と保育者の同僚性－（船田） 第 14 回： 保育者の協働と連携（船田） 第 15 回： 保育の現状と今後の課題（船田） 定期試験			
テキスト	最新保育講座 2 保育者論（ミネルヴァ書房）		
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）		

授業科目名： 教育課程論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 坂本 真理子 担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（教育の基礎的理解に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	教育課程の意義及び編成の方法を理解する。子どもの興味や関心、発達過程に合わせた指導計画作成のポイントや方法について理解する。		
授業の概要	教育課程についての基礎知識を知り、指導計画作成の手順やカリキュラムマネジメントについて理解する。教育課程を具体化した指導計画の立案ができることを目指す。		
授業計画			
第 1 回： ガイダンス～教育課程とは～ 第 2 回： 教育課程の意義 第 3 回： 教育要領の歴史的変遷 第 4 回： 指導計画と保育の実際（VTR・・・はじめての幼稚園実習） 第 5 回： 教育課程編成の基本と原理 第 6 回： 保育計画の種類と特徴 第 7 回： 長期（年間・月間）の指導計画（編成方法） 第 8 回： 短期（週案・日案）の指導計画（編成方法） 第 9 回： 子どもの発達や実態と合った指導計画 第 10 回： 実習指導案の作成と留意点（実際に作成） 第 11 回： 保育の記録と評価 第 12 回： 子どもの実態と計画、教育課程との関連 第 13 回： 保育の計画と実践と評価との関係性 第 14 回： カリキュラムマネジメントの意義と重要性 第 15 回： まとめ～保育の計画の必要性和仕組みの確認～ 定期試験			
テキスト	最新保育講座 5 保育課程・教育課程（ミネルヴァ書房）		
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）		

#### 4、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

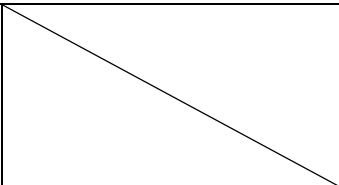
授業科目名： 幼児理解の理論 及び方法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 坂本 真理子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目）		
	専門教育科目（保育の対象の理解に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 保育者の役割、職務内容について理解する。2. 子どもや保護者に対する 適切な援助方法を理解する。3. 子どもや保護者への対応を考える中、援 助の普遍性について学ぶ。		
授業の概要	子どもたちや保護者への方策を、子どもたちの発達、教育理論等を踏まえ 適切な理解をする。また、保育、心理などにおける援助の方策の共通理念に ついて考えていく。		
授業計画			
<p>第1回： オリエンテーション この授業の意味について</p> <p>第2回： 保育の基本としての援助</p> <p>第3回： 幼児理解に基いた援助のねらいと内容</p> <p>第4回： 保育で求められる援助1（援助とは何か）</p> <p>第5回： 保育で求められる援助2（子どもへの援助活動）</p> <p>第6回： 保育で求められる援助3（保護者との連携、援助）</p> <p>第7回： 発達と援助1（発達をどうとらえていくか）</p> <p>第8回： 発達と援助2（集団と個への対応）</p> <p>第9回： 気になる子への対応</p> <p>第10回： 遊びを通じた集団の形成</p> <p>第11回： 人間関係を通じた援助のあり方</p> <p>第12回： 自立への展開</p> <p>第13回： 援助の普遍性に関する考察</p> <p>第14回： 保育の質について</p> <p>第15回： 現代的課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	演習保育相談支援（萌文書林）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・ 文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書・参考資料等	特になし		
学生に対する評価	定期試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）		



## 5、保育の本質・目的の理解に関する科目

授業科目名： 保育原理	/	単位数： 2 単位	担当教員名： 森川 みゆき
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の意義や保育者としての専門的内容の基盤を広い視野から学習することで、保育を総合的に捉え、保育の営みの役割を理解する。		
授業の概要	保育の専門性、保育観、子ども観、子どもの理解、保育における環境の意味など、保育現場からの視点を大切にしながら現在求められている「保育」の意味を考察していく。		
授業計画			
<p>第1回： オリエンテーション この授業の意味について</p> <p>第2回： 保育の基本としての援助</p> <p>第3回： 幼児理解に基いた援助のねらいと内容</p> <p>第4回： 保育で求められる援助1（援助とは何か）</p> <p>第5回： 保育で求められる援助2（子どもへの援助活動）</p> <p>第6回： 保育で求められる援助3（保護者との連携、援助）</p> <p>第7回： 発達と援助1（発達をどうとらえていくか）</p> <p>第8回： 発達と援助2（集団と個への対応）</p> <p>第9回： 気になる子への対応</p> <p>第10回： 遊びを通じた集団の形成</p> <p>第11回： 人間関係を通じた援助のあり方</p> <p>第12回： 自立への展開</p> <p>第13回： 援助の普遍性に関する考察</p> <p>第14回： 保育の質について</p> <p>第15回： 現代的課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	最新 保育原理－わかりやすく保育の本質に迫る－（保育出版社）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
参考書・参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（20%）、レポート課題（20%）、期末試験（60%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 子ども家庭福祉		単位数： 2 単位	担当教員名： 中村 武光
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)到達目標 ①授業で学んだことを文章で的確に表現することができる。 ②授業で学んだことを使って友達と対話や交流ができる。 ③書物を読み、実践のヒントとなることをつかめる。 (2)テーマ ①児童家庭福祉は、どのような内容を対象とするか？ ②産業革命以降の子どもにどんな問題が起きていたか？ ③現在の子どもにどんな問題が起きているか？		
授業の概要	(1)授業の方法 ①講義と傾聴 ②発表と感想の交流 ③小論文を書く (2)留意点 ①リアルな子どもの状況がわかる文章を用意する。 ②友達の発言を注意深く受け止める。 ③自分自身の率直な感想を大事にする。		
授業計画			
第1回： 授業の進め方 第2回： 児童家庭福祉とは何か 第3回： 過去の時代に子どもに起きていたこと①（産業革命の頃のイギリス） 第4回： 過去の時代に子どもに起きていたこと②（戦前の日本） 第5回： 過去の時代に子どもに起きていたこと③（戦後まもない日本） 第6回： 過去の時代に子どもに起きていたこと④（「三丁目の夕日」の頃の日本） 第7回： 現代という時代に子どもに起きていること①（子どもの貧困） 第8回： 現代という時代に子どもに起きていること②（いじめ・虐待） 第9回： 子どもの人権を実現する歴史の流れ 第10回： <子どもの定義><子どもの養育責任> 第11回： <子どもの諸問題に対する対応>① 第12回： <子どもの諸問題に対する対応>② 第13回： 子どもの権利条約について 第14回： 子どもを守る機関（児童相談所） 第15回： 子どもを守る法律（児童福祉法） 定期試験			
テキスト	授業のプリントを用意します。 (子どもによる子どものための権利条約（小学館）)		
参考書・参考資料等	関係のあることをのせた教科新聞を発行しますのでよく読んでおいてください。		
学生に対する評価	期末筆記試験（50%）、小論文と感想の表明、傾聴（50%）		

授業科目名： 社会的養護 I		単位数： 2 単位	担当教員名： 中村 武光
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)到達目標 ①授業で学んだことを文章で的確に表現することができる。 ②授業で学んだことを使って友達と対話や交流ができる。 ③書物を読み、実践のヒントとなることをつかめる。 (2)テーマ ①社会的養護とは何か？ ②児童養護施設での支援の内容は？ ③里親の支援の内容は？ ④ファミリーホームでの支援の内容は？		
授業の概要	(1)授業の方法 ①講義と傾聴 ②発表と感想の交流 ③小論文を書く (2)留意点 ①リアルな子どもの状況がわかる文章を用意する。 ②友達の発言を注意深く受け止める。 ③自分自身の率直な感想を大事にする。		
授業計画			
第 1 回： オリエンテーション この授業の意味について 第 2 回： 保育の基本としての援助 第 3 回： 幼児理解に基いた援助のねらいと内容 第 4 回： 保育で求められる援助 1（援助とは何か） 第 5 回： 保育で求められる援助 2（子どもへの援助活動） 第 6 回： 保育で求められる援助 3（保護者との連携、援助） 第 7 回： 発達と援助 1（発達をどうとらえていくか） 第 8 回： 発達と援助 2（集団と個への対応） 第 9 回： 気になる子への対応 第 10 回： 遊びを通した集団の形成 第 11 回： 人間関係を通した援助のあり方 第 12 回： 自立への展開 第 13 回： 援助の普遍性に関する考察 第 14 回： 保育の質について 第 15 回： 現代的課題 定期試験			

テキスト	子どもにかかわる仕事（岩波ジュニア新書） 授業のプリントを用意します
参考書・参考資料等	関係のあることをのせた教科新聞を発行しますのでよく読んでおいてください。
学生に対する評価	期末筆記試験（50%）、小論文と感想の表明、傾聴（50%）

## 6、保育の対象の理解に関する科目

授業科目名： 子ども家庭支援の 心理学		単位数： 2 単位	担当教員名： 早川 貴子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の対象の理解に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	人の誕生から死までの生涯発達をおさえた上で、家族・家庭との関連について講義する。また、子どもからおとなまでの取り巻く環境とそのかわり、現実の子どもやおとなの姿などの理解を深める。		
授業の概要	<p>(1)生涯発達の観点をふまえながら子どもの心身の発達の基礎を学ぶ。</p> <p>1)子どもの心身の発達に関わる心理学の基礎を理解し習得する。</p> <p>2)生涯発達の観点から発達の過程を理解する。</p> <p>3)保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。</p> <p>(2)家族・家庭の意義や機能をふまえながら、親子関係・家族間等について発達的に理解し包括視点を習得する。</p> <p>1)家族・家庭の意義と機能を理解する。</p> <p>2)親子関係・家族関係を理解する。</p> <p>(3)精神保健とその課題</p> <p>1)子どもの心の健康にかかる問題について理解する。</p> <p>2)特別な配慮を要する家庭について知識を得る。</p>		
授業計画			
<p>第1回： 子ども家庭支援の心理学</p> <p>第2回： 乳幼児期の発達的特徴</p> <p>第3回： 乳幼児の発達的特徴</p> <p>第4回： 学童期の発達的特徴</p> <p>第5回： 思春期から青年期の発達的特徴</p> <p>第6回： 子どもの心と健康①</p> <p>第7回： 子どもの心と健康②</p> <p>第8回： 成人期から老年期の発達的特徴</p> <p>第9回： 家族システムと家族発達</p> <p>第10回： 親になるとはどういうことか</p> <p>第11回： 子育て環境の社会状況の変化</p> <p>第12回： ライフワークとワーク・ライフ・バランス</p> <p>第13回： 多様な子育て家族とその支援</p> <p>第14回： 特別な配慮を必要とする家族とその支援</p> <p>第15回： まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	資料を配布する		
参考書・参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（20%）、試験（80%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもの食と栄養		単位数： 2 単位	担当教員名： 扶川 利枝
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の対象の理解に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	1、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。 4、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		
授業の概要	食育に重点をおき、乳児期、幼児期、学童期、思春期の各段階に応じた食生活のあり方と問題点、および母親・保護者になる者として母性栄養も学習する。		
授業計画			
第1回：	子どもの健康と食生活	乳幼児の食生活の現状	乳幼児の栄養アセスメント
第2回：	子どもの健康と食生活	朝食欠食・偏食の問題と対応	嘔まない子の問題と対応
第3回：	子どもの健康と食生活	孤食の弊害と対応	世界の子どもたちの食生活
第4回：	栄養・食に関する基本的知識	消化吸収の仕組み	栄養の基礎知識
第5回：	栄養・食に関する基本的知識	たんぱく質の代謝・糖代謝	と栄養学的意義
第6回：	栄養・食に関する基本的知識	脂質の代謝・ビタミンの代謝	と栄養学的意義
第7回：	栄養・食に関する基本的知識	ミネラルの代謝	と栄養学的意義 食物繊維と水分
第8回：	栄養・食に関する基本的知識	日本人の食事摂取基準	
第9回：	子どもの発育・発達と栄養・食生活	授乳・離乳支援ガイド	乳幼児の咀嚼機能の発達
第10回：	まとめ 小テスト（1～9まで）		
第11回：	子どもの発育・発達と栄養・食生活	乳幼児の味覚・消化吸収機能の発達	と食事提供
第12回：	子どもの発育・発達と栄養・食生活	乳幼児期栄養－乳汁栄養	離乳食期栄養
第13回：	子どもの発育・発達と栄養・食生活	調乳（実習）	
第14回：	子どもの発育・発達と栄養・食生活	幼児期栄養	学童・思春期の栄養
第15回：	食育の基本と実践	食育基本法の概要	第3次食育推進基本計画の概要
第16回：	食育の基本と実践	保育所における食育の推進	計画・実施・評価
第17回：	食育の基本と実践	学校給食の現状	・栄養教諭
第18回：	児童福祉施設や家庭における食と栄養	児童福祉施設における食に関する指針	児童福祉施設と給食の役割
第19回：	児童福祉施設や家庭における食と栄養	保育所における食に関する保護者支援	食に関する地域との連携
第20回：	まとめ 小テスト（11～19まで）		
第21回：	食の安全	感染症と食中毒の違い	
第22回：	食の安全	食中毒の発生状況と予防策	

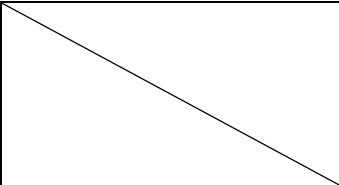
第23回： 食の安全	施設における衛生管理
第24回： 基礎調理実習（実習）	
第25回： 基礎調理実習（実習）	
第26回： 特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギー 鉄欠乏性貧血
第27回： 特別な配慮を要する子どもの食と栄養	糖尿病 発熱 体調不良
第28回： 特別な配慮を要する子どもの食と栄養	急性胃腸炎 便秘
第29回： 特別な配慮を要する子どもの食と栄養	肥満 やせ 障害児
第30回： まとめ	
定期試験	
テキスト	子どもの食と栄養（中山書店）
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布いたします。
学生に対する評価	期末試験（50%）、小テスト・提出課題（30%）、授業態度（出席状況を含む）（20%）から総合的に評価する。（実習は、必ず出席しレポートを提出すること。）

## 7、保育の内容・方法の理解に関する科目

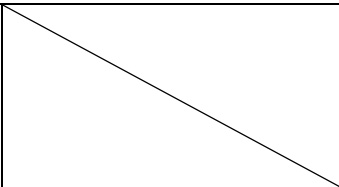
授業科目名： 保育の計画と評価	/	単位数： 2 単位	担当教員名： 坂本 真理子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の全体計画についての基礎知識を知り、指導計画作成の手順やカリキュラムマネジメントについて理解する。全体的な計画を具体化した指導計画の立案ができることを目指す。		
授業の概要	保育の計画と評価の意義及び編成の方法を理解する。子どもの興味や関心、発達過程に合わせた指導計画作成のポイントや方法について理解する。		
授業計画			
<p>第1回： ガイダンス～保育の計画と評価について～</p> <p>第2回： 全体的な計画の意義</p> <p>第3回： 保育指針の歴史的変遷</p> <p>第4回： 全体的な計画編成の基本と原理</p> <p>第5回： 保育の計画の種類と特徴</p> <p>第6回： 長期（年間・月間）の指導計画（編成方法）</p> <p>第7回： 短期（週案・日案）の指導計画（編成方法）</p> <p>第8回： 子どもの発達や実態と合った指導計画</p> <p>第9回： 指導計画と保育の実際</p> <p>第10回： 実習指導案の作成と留意点①</p> <p>第11回： 実習指導案の作成と留意点②</p> <p>第12回： 保育の記録と評価</p> <p>第13回： 教育課程との関係性</p> <p>第14回： カリキュラムマネジメントの意義と重要性</p> <p>第15回： まとめ～保育の計画の必要性和仕組みの確認～</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	定期考査（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）		



授業科目名： 保育内容領域（健康）		単位数： 2 単位	担当教員名： 伊藤 能之
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）		
	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	1、領域「健康」について理解を深める。2、保育内容「健康」について、そのねらいと内容の関係性、意味について理解を深める。3、健康の基礎となる生活習慣の形成を育てるために援助のありかた、および援助の普遍性について理解する。		
授業の概要	子どもたちの健康、および健康の基礎となる生活習慣を育てるための方法論、実践論を事例および情報機器を用いて教授していく。幼児期のそれぞれの発達段階に基づき、健康の意味を自立する過程について、および保育実践のあり方について指導する。		
授業計画			
第1回： オリエンテーション この授業の意味について 第2回： 保育の基本としての健康 第3回： 領域「健康」のねらいと内容 第4回： 教材研究1（健康に関わる教材を情報機器を用いて理解する） 第5回： 教材研究2（健康に関わる教材の応用） 第6回： 子どもの発達からみた健康 第7回： 健康と身体表現との関係 第8回： 模擬保育1（役割を演じることによる保育実践） 第9回： 模擬保育2（ルールプレイの意味および指導案指導を行う） 第10回： 模擬保育3（保育実践の理解とともに指導案指導を行う） 第11回： 幼児の遊びからみた健康の意味 第12回： 自立への展開 第13回： 運動能力の課題（情報機器を用いて理解する） 第14回： 生活のリズムからみた健康（情報機器を用いて理解する） 第15回： 子どもの健康における現代的課題 定期試験			
テキスト	子どもと健康（大学図書出版）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領解説 文部科学省（フレーベル館） 保育所保育指針解説 厚生労働省（フレーベル館）		
学生に対する評価	定期考査（60%）、提出課題（20%）、授業態度（20%）		

授業科目名： 保育内容領域 (人間関係)		単位数： 2 単位	担当教員名： 五十嵐 淳子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目 (領域及び保育内容の指導法に関する科目)		
専門教育科目 (保育の内容・方法に関する科目)			
授業の到達目標 及びテーマ	<p>一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、かかわっていくことはどういうことかを捉え、人とかかわる力を養う「人間関係」の領域を理解する。</p> <p>保育内容領域「人間関係」について構造的にとらえた上で、保育内容をいかに構成・展開していくか理解を深める保育実践力を養うことを目標とする。</p> <p>幼児の「人とかかわる力」がどのように育んでいくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶を目指す。</p>		
授業の概要	<p>人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人とのかかわりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達の特徴を踏まえた、人とのかかわりを育てる保育者の役割と援助について指導する。</p> <p>子ども達の「人とかかわる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め、乳幼児期の人間関係の発達特性をふまえた保育実践のあり方を指導する。</p>		
授業計画			
<p>第1回： オリエンテーション、領域「人間関係」とは</p> <p>第2回： 子どもの遊びと人間関係</p> <p>第3回： 領域「人間関係」のねらいと内容</p> <p>第4回： 乳幼児期における人間関係の発達</p> <p>第5回： 人とのかかわりを育てる保育教材</p> <p>第6回： 子どもの人間関係を育む保育者の役割</p> <p>第7回： 子どもの言葉と人間関係</p> <p>第8回： 子どもの人間関係を育む保育実践①保育教材と子ども</p> <p>第9回： 子どもの人間関係を育む保育実践②子どもへの声かけ</p> <p>第10回： 子どもの人間関係を育む保育実践③子どもとのかかわり</p> <p>第11回： 子どもを取り巻く地域や高齢者との交流</p> <p>第12回： 保育者同士の人間関係</p> <p>第13回： 保育者と保護者の人間関係</p> <p>第14回： 保護者へのかかわり (学級便りの作成)</p> <p>第15回： まとめ 重要事項の整理と確認</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	新版 実践から学ぶ 人間関係 (大学図書出版)		
参考書・参考資料等	五十嵐淳子「多文化理解・国際理解 多様性の尊重を目指して」大学図書出版 2019年		
学生に対する評価	授業態度 (10%)、保育実践の発表 (40%)、提出物 (10%)、定期試験 (40%) から総合的に評価する。		

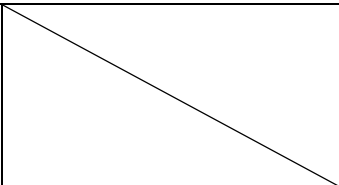
授業科目名： 保育内容領域（環境）		単位数： 2 単位	担当教員名： 石井 久美子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）		
	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>保育の基本は、環境を通して行われるものであること。また、そのほか 4 つの領域と相互に関連し合って、子どもの健やかな成長発達が助長されていくことへの理解を深める。</p> <p>子ども達を取り巻く環境（主に保育所）と主体的にかかわりたくなる望ましい環境について理解し、具体的な支援方法について学ぶ。</p>		
授業の概要	<p>環境を通して行う保育の重要性について十分な理解ができるよう事例や資料を通して学んでいく。また、子どもの生活を豊かにするための環境構成や具体的な支援情報について考察していく。</p>		
授業計画			
<p>第 1 回： 授業ガイダンス／領域「環境」のねらいと内容（保育所保育指針）</p> <p>第 2 回： 子どもを取り巻く保育環境</p> <p>第 3 回： 保育所の生活と環境（乳児）</p> <p>第 4 回： 保育所の生活と環境（1 歳以上 3 歳未満児）</p> <p>第 5 回： 保育所の生活と環境（3 歳以上児）</p> <p>第 6 回： 乳児期の基礎を培う保育環境</p> <p>第 7 回： 保育所の子どもと環境との関わり（人的、物的）</p> <p>第 8 回： 保育所の子どもと生活①（文字や形、数との関わり）</p> <p>第 9 回： 保育所の子どもと生活②（季節ごとの自然との関わり）</p> <p>第 10 回： 保育所の子どもと生活③（行事や地域との関わり）</p> <p>第 11 回： 子どもの健康支援・安全管理と環境</p> <p>第 12 回： 保育所におけるアレルギー対応と環境</p> <p>第 13 回： 保育所における食育推進と環境</p> <p>第 14 回： 領域「環境」を通して行う保育とは</p> <p>第 15 回： まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	保育実践に生かす 保育内容「環境」（保育出版社）		
参考書・参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40%）、試験（60%）の総合評価。		

授業科目名： 保育内容領域（言葉）		単位数： 2 単位	担当教員名： 小林 惠
			担当形態： 単独
科 目		専門教育科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）	
		専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）	
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の言葉の獲得とその過程、領域「言葉」についての考え方を理解し、乳幼児期に言葉が豊かに育つには保育者としてどのように援助すればよいか基本的な知識を深め、保育者の役割を理解する。		
授業の概要	講義と映像等を使用し、乳幼児の言葉の特徴と言葉に係る幅広い視点からの学びをすすめる。		
授業計画			
第 1 回： 言葉の教育の移り変わり 第 2 回： 領域「言葉」と他領域との関係① 第 3 回： 領域「言葉」と他領域との関係② 第 4 回： 言葉の獲得過程とその特徴① 第 5 回： 言葉の獲得過程とその特徴② 第 6 回： 言葉の発達を支える保育者の役割① 第 7 回： 言葉の発達を支える保育者の役割② 第 8 回： 子どもの言葉が育つ環境とは 第 9 回： 領域「言葉」をふまえた環境構成と指導計画① 第 10 回： 領域「言葉」をふまえた環境構成と指導計画② 第 11 回： 話し言葉と書き言葉が伝える世界 第 12 回： ごっこ遊びと言葉 第 13 回： メディアと言葉 第 14 回： 幼児教育の現代的課題と領域「言葉」 第 15 回： まとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（表現）		単位数： 2 単位	担当教員名： 森川 みゆき
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）		
	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、保育における「表現」とはどのようなものであるのか学習する。また、一人ひとりの子どもの豊かな表現を育てていくために保育者としてどのように援助をすればよいのか理解を深める。		
授業の概要	領域「表現」のねらい及び内容をふまえ、乳幼児の表現を育む保育者の援助について考えていく。また、実践事例の検討を通して指導場面を具体的にイメージし、保育を構想する方法を身に付ける。		
授業計画			
第 1 回： 保育における領域「表現」とは 第 2 回： 表現の発達 第 3 回： 表現を育むということ ①身体による表現 第 4 回： 表現を引き出す援助 ①身体による表現 第 5 回： 表現を育むということ ②音楽による表現 第 6 回： 表現を引き出す援助 ②音楽による表現 第 7 回： 表現を育むということ ③造形による表現 第 8 回： 表現を引き出す援助 ③造形による表現 第 9 回： 表現力を豊かにするワーク ①身体による表現 第 10 回： 表現力を豊かにするワーク ②音楽による表現 第 11 回： 表現力を豊かにするワーク ③造形による表現 第 12 回： 表現力を豊かにするワーク ④総合的な表現 第 13 回： 表現を育む援助指導 ①指導計画案の基本 第 14 回： 表現を育む援助指導 ②指導計画案の作成 第 15 回： 領域「表現」をとりまく問題 定期試験			
テキスト	保育内容 領域 表現（わかば社） 文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書・参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（20%）、レポート課題（20%）、期末試験（60%）から総合的に評価する。		

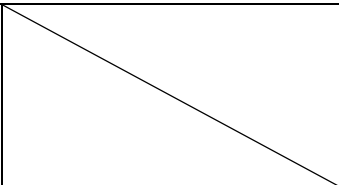
授業科目名： 乳児保育 I		単位数： 2 単位	担当教員名： 石井 久美子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	0、1、2 歳児の心身の発達や日常生活、遊びについての基本を理解し、健やかな成長発達を促すために必要な保育者としてのかかわり（知識や技術）を習得することを目的とする。		
授業の概要	乳幼児期は人間形成の基礎を培う最も重要な時期である。発達を保障するために必要な保育者としての役割や知識また乳児を担当する保育者としての支援のあり方について学ぶ。		
授業計画			
第 1 回： 授業ガイダンス／乳児保育とは 第 2 回： 乳児保育の変遷 第 3 回： 乳児保育の様々な場 第 4 回： 乳児と保育所の日 第 5 回： 子どもの発達と保育（乳児） 第 6 回： 子どもの発達と保育（1 歳以上 3 歳未満児） 第 7 回： 子どもの発達と保育（3 歳以上児） 第 8 回： 保育所における乳児の基本的生活習慣の発達（食事・排泄） 第 9 回： 保育所における乳児の基本的生活習慣の発達（睡眠・着脱） 第 10 回： 保育所における乳児の言葉の獲得 第 11 回： 保育所における乳児の運動機能の発達 第 12 回： 乳児保育の環境（人とのかかわり） 第 13 回： 乳児保育の環境（物とのかかわり） 第 14 回： 乳児保育の環境（自然とのかかわり） 第 15 回： まとめ 定期試験			
テキスト	やさしい乳児保育（青踏社）		
参考書・参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布。		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40%）、試験（60%）の総合評価。		

授業科目名： 乳児保育Ⅱ		単位数： 2 単位	担当教員名： 石井 久美子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	0、1、2 歳児の実態を踏まえた乳児保育の実際について理解し、これからの乳児保育に求められる事柄（具体的な支援方法や計画）を習得する。		
授業の概要	乳児保育に携わる者として必要な専門的知識・技術の向上を目指し、子どもの福祉を増進することにふさわしい生活の場を計画、実践できる方法について学ぶ。		
授業計画			
第 1 回： 授業ガイダンス／乳児保育の重要性 第 2 回： 乳児の遊びとかかわり 第 3 回： 乳児のおもちゃ 第 4 回： 乳児期における病気や事故 第 5 回： 保育所の乳児保育における保健活動（健康） 第 6 回： 保育所の乳児保育における保健活動（安全） 第 7 回： 保育の計画と作成（0、1、2 歳児） 第 8 回： 乳児保育と連携（保育者、他職種） 第 9 回： 乳児保育と連携（保護者、地域） 第 10 回： 家庭における子育て 第 11 回： 保育所における子育て支援 第 12 回： 保育所における食事 第 13 回： 病児保育（アレルギー対応等を含む） 第 14 回： 保育所の社会的責任と役割 第 15 回： 乳児を取り巻く保育環境の現状と課題 定期試験			
テキスト	やさしい乳児保育（青踏社）		
参考書・参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布。		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40%）、試験（60%）の総合評価。		

授業科目名： 子どもの健康と安全		単位数： 2 単位	担当教員名： 森川 みゆき
		担当形態： 単独	
科 目	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>保育所保育、保育士において健康および安全の確保の重要性について考える。</p> <p>子どもが自らの体や健康に関心をもち、心身の機能を高めていくことが大切であることを学び考える。</p> <p>保育所、保育士が子どもの健康の増進、安全教育、安全管理、子どもの発達、虐待予防においてどのようなことができるのか、また責任があるのかを学び考える。</p>		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、子どもの発達、発育に応じた保健活動の対応について学習する。</li> <li>2、子どもの心身の健康増進、発達、発育を促す保健活動や環境について学習する。</li> <li>3、子どもの疾病やその予防について学習する。</li> <li>4、緊急時、体調不良時の知識と技術、対応を学習する。</li> <li>5、虐待予防、対応について学習する。</li> <li>6、保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策について具体的に学ぶ。</li> <li>7、現代の心の健康問題について学習する。</li> <li>8、地域保健活動などについて理解する。</li> </ol>		
授業計画			
<p>第1回： 子どもの健康と安全とは①</p> <p>第2回： 子どもの健康と安全とは②</p> <p>第3回： 子どもの発育・発達の観察と評価①</p> <p>第4回： 子どもの発育・発達の観察と評価②</p> <p>第5回： 子どもの体調不良などへの対応①</p> <p>第6回： 子どもの体調不良などへの対応②</p> <p>第7回： 保育における応急手当</p> <p>第8回： 望ましい保育環境と安全対策①</p> <p>第9回： 望ましい保育環境と安全対策②</p> <p>第10回： 子どもの心と体の健康づくりのために</p> <p>第11回： 災害対策</p> <p>第12回： 精神保健と保育</p> <p>第13回： 虐待予防と安全</p> <p>第14回： 安全管理、安全教育について考える①</p> <p>第15回： 安全管理、安全教育について考える②</p> <p>定期試験（筆記試験）</p>			



テキスト	持ち歩きたい この一冊！幼稚園教諭 保育士養成課程 実習丸わかりガイドブック（大学図書出版）
参考書・参考資料等	これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ（創成社） 心理尺度ファイル 人間と社会を図る（垣内出版） これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ（創成社） 新社会福祉士養成講座 保健医療サービス（中央法規） アタッチメント・スタイル面接の理論と実践 家族の見立て・ケア・介入（金剛出版）
学生に対する評価	授業態度・出席（20%）、提出物・小テスト（30%）、試験（50%）

授業科目名： 障害児保育		単位数： 2 単位	担当教員名： 馬場 節子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)障害児保育の理念を知り障害を理解し、障害児保育の実際を知る。 1)歴史と基本を知る。 2)対照的にみた障害のある子どもを理解し、その援助を知る。 3)障害児保育の実際を知る。 (2)障害児保育の機関連携と現状と課題を考える。 1)指導計画作成・記録・評価を学ぶ。 2)家庭及び関連機関との連携を知る。 3)福祉・教育における現状と課題を知り考える。		
授業の概要	テキストや配布資料に基づく解説講義を中心としつつ、ディスカッションや各種事例を用いた演習を行う。 ・障害児保育の理論と実践を学ぶ。 ・障害児保育の考え方、保育の方法、評価、保護者への支援などについて理解を深める。		
授業計画			
第1回： 授業ガイダンス／乳児保育の重要性 第2回： 乳児の遊びとかかわり 第3回： 乳児のおもちゃ 第4回： 乳児期における病気や事故 第5回： 保育所の乳児保育における保健活動（健康） 第6回： 保育所の乳児保育における保健活動（安全） 第7回： 保育の計画と作成（0、1、2歳児） 第8回： 乳児保育と連携（保育者、他職種） 第9回： 乳児保育と連携（保護者、地域） 第10回： 家庭における子育て 第11回： 保育所における子育て支援 第12回： 保育所における食事 第13回： 病児保育（アレルギー対応等を含む） 第14回： 保育所の社会的責任と役割 第15回： 乳児を取り巻く保育環境の現状と課題 第16回： 前期の振り返りと後期に向けて 第17回： 保育課程に基づく指導計画の作成と記録および評価① 第18回： 保育課程に基づく指導計画の作成と記録および評価② 第19回： 個別の支援計画① 第20回： 個別の支援計画② 第21回： 保護者や家庭に対する支援① 第22回： 保護者や家庭に対する支援②			

第 23 回	地域の専門機関との連携①
第 24 回	地域の専門機関との連携②
第 25 回	小学校との連携①
第 26 回	小学校との連携②
第 27 回	福祉・教育における現状と課題①
第 28 回	福祉・教育における現状と課題②
第 29 回	保育場面の事例演習
第 30 回	まとめ
定期試験	
テキスト	基本保育シリーズ 17 障害児保育（中央法規出版）
参考書・参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）
学生に対する評価	試験（50%）、レポート（30%）、授業内課題（20%）

## 8、保育実習

授業科目名： 保育実習指導 I	/	単位数： 2 単位	担当教員名： 石井 久美子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育実習）		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習の意義や目的について理解する。また、実習をするために必要な知識や技術を習得し、自己課題を明確にすることを目標とする。		
授業の概要	保育実習の意義や目的について学ぶ。また、児童福祉施設の種別、それぞれの施設の機能や役割についてなど統合的に理解する。さらに、実習生としてのふさわしい心構えや態度、保育士としての職務内容、専門性について理解を深めていく。		
授業計画			
<p>第1回： 授業ガイダンス、保育実習 I の意義と目的</p> <p>第2回： 保育実習の種類／保育所について</p> <p>第3回： 保育実習の方法及び内容</p> <p>第4回： 保育実習の心構え／映像資料①</p> <p>第5回： 保育実習の実際／映像資料②</p> <p>第6回： 保育所のデイリープログラム</p> <p>第7回： プライバシーの保護と守秘義務（職業倫理について理解する）</p> <p>第8回： ボランティア活動について</p> <p>第9回： 実習日誌の意義／実習日誌の書き方①</p> <p>第10回： 実習日誌の書き方②</p> <p>第11回： 指導案の書き方</p> <p>第12回： 自己課題の発見／実習書類準備（次の実習学習目標を明らかにする）</p> <p>第13回： 実習学内オリエンテーション／実習書類準備</p> <p>第14回： 実習先オリエンテーションについて</p> <p>第15回： まとめ</p> <p>第16回： 授業ガイダンス、施設実習の意義と目的</p> <p>第17回： 施設実習の種類／児童福祉施設について</p> <p>第18回： 施設実習の方法及び内容</p> <p>第19回： 施設実習の心構え／映像資料①</p> <p>第20回： 施設実習の実際／映像資料②</p> <p>第21回： 施設実習の基本的理解</p> <p>第22回： 児童福祉施設のデイリープログラム</p> <p>第23回： プライバシーの保護と守秘義務</p> <p>第24回： ボランティア活動について</p> <p>第25回： 実習日誌の意義。／実習日誌の書き方①</p> <p>第26回： 実習日誌の書き方②</p>			

第 27 回： 指導案の書き方

第 28 回： 自己課題の発見（保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善）

第 29 回： 実習学内オリエンテーション／実習事前指導

第 30 回： まとめ

定期試験

テキスト	実習まるごとガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版） 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」 （平成 29 年度告示）
参考書・参考資料等	適宜プリント配布
学生に対する評価	受講態度・課題提出（40%）、試験（60%）の総合評価

2年生

## 1、基礎科目

授業科目名： 体育実技	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木戸 直美
			担当形態： 単独
科 目	教養科目 - 体育		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)運動を楽しむための基礎的な技能を身につける。  (2)保育者として必要な運動遊びに関する基礎的な知識や技能を身につける。  1) 基本の運動がスムーズに行える。  2) 基本の運動をアレンジして発展的に運動を行える。  3) 子どもの運動遊びに関する知識や技能を習得している。  4) 子どもと運動遊びを楽しめる多様な動きや表現力を習得している。</p>		
授業の概要	<p>運動を楽しみ、積極的に他者と関わりながら創造的に動く。将来的には子どもたちと一緒に運動遊びを楽しめるよう、多様な動き・表現、基礎体力を身につける。</p>		
授業計画			
<p>第1回： オリエンテーション  第2回： 基本の運動とその応用 (1) 歩こう走ろう  第3回： 基本の運動とその応用 (2) 跳ぼう転がろう  第4回： 基本の運動とその応用 (3) 伝承遊び  第5回： 遊具を使った運動 (1) なわ  第6回： 遊具を使った運動 (2) ボール  第7回： リズムに合わせた運動 (1) グループ活動 (大枠の確認)  第8回： リズムに合わせた運動 (2) グループ活動 (細部の確認)  第9回： リズムを使った運動 (3) グループ発表  第10回： グループ発表振り返り 望ましい指導とは  第11回： 遊具を使った運動 (3) バルーンの基本  第12回： 遊具を使った運動 (4) バルーンを用いたグループ発表  第13回： 創作活動 (1) 発表会準備 (大枠の確認)  第14回： 創作活動 (2) 発表会準備 (細部の確認：作りこみ)  第15回： 創作活動 (3) 発表会準備 (細部の確認：動きこみ)  グループ作品発表会 (まとめ)</p>			
テキスト	<p>始めの一步 ここに食べ物ゲーム (一粒書房)  一歩一歩進もう「健康」ワークブック (一粒書房)</p>		
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	<p>授業参加 (態度・積極性・協調性) 30%、筆記テスト 50%、振り返りシート 10%、レポート 10%から総合的に判断する。</p>		

授業科目名： 情報機器の操作	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐伯 慶太郎
			担当形態： 単独
科 目	教養科目 - 情報機器の操作		
授業の到達目標 及びテーマ	高度情報通信社会における情報モラルを身に付け、パソコンの基本操作を習得する。		
授業の概要	情報モラルについて学び、ワード、エクセル、インターネット、パワーポイントの基本的な操作方法を実習する。		
授業計画			
<p>第 1 回： 情報モラル、各パソコンの ID・パスワード等の初期設定、コンピュータ教室での使用方法</p> <p>第 2 回： タイピング練習</p> <p>第 3 回： ワード① かんたんなおたよりを作成しよう 1</p> <p>第 4 回： ワード② かんたんなおたよりを作成しよう 2</p> <p>第 5 回： ワード③ かんたんなおたよりを作成しよう 3</p> <p>第 6 回： ワード⑤ 図表が入ったおたよりを作成しよう 1</p> <p>第 7 回： ワード⑥ 図表が入ったおたよりを作成しよう 2</p> <p>第 8 回： ワード⑦ 図表が入ったおたよりを作成しよう 3</p> <p>第 9 回： ワード⑧ 図表が入ったおたよりを時間で完成させよう</p> <p>第 10 回： ワード⑨ 図表が入ったおたよりの課題を時間で保存し完成させよう。</p> <p>第 11 回： エクセル① 作表とかんたんな表計算をしよう 1</p> <p>第 12 回： エクセル② 作表とかんたんな表計算をしよう 2</p> <p>第 13 回： エクセル③ 作表とかんたんな表計算をしよう 3</p> <p>第 14 回： エクセル④ 作表とかんたんな表計算をしよう 4</p> <p>第 15 回： エクセル⑤ 作表とかんたんな表計算を時間で完成させよう</p> <p>第 16 回： エクセル⑥ 作表とかんたんな表計算を時間で保存し完成させよう</p> <p>第 17 回： エクセル⑥ かんたんな表とグラフを作成しよう</p> <p>第 18 回： エクセル⑦ グラフの課題を学習しよう</p> <p>第 19 回： エクセル⑧ かんたんなグラフの課題を時間で保存し完成させよう</p> <p>第 20 回： プレゼンテーション① スライドの作成をしよう 1</p> <p>第 21 回： プレゼンテーション② スライドの作成をしよう 2</p> <p>第 22 回： プレゼンテーション③ 課題のスライドを作成しよう 1</p> <p>第 23 回： プレゼンテーション④ 課題のスライドを作成しよう 2</p> <p>第 24 回： プレゼンテーション⑤ 課題のスライドを作成しよう 3</p> <p>第 25 回： プレゼンテーション⑥ 課題のスライドを作成しよう 4</p> <p>第 26 回： プレゼンテーション⑦ 発表 1</p> <p>第 27 回： プレゼンテーション⑧ 発表 2</p> <p>第 28 回： プレゼンテーション⑨ 発表 3</p> <p>第 29 回： プレゼンテーション⑩ 発表 4</p> <p>第 30 回： プレゼンテーション⑪ 課題提出</p>			



テキスト	保育者のためのパソコン講座（萌文書林）
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	授業中の提出物・課題・実技試験（70%）と発表（20%）出席（10%）での総合評価

## 2、基礎技能

授業科目名： 保育内容<造形表現>	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堀内 有子
			担当形態： 単独
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 保育内容の指導法		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)保育者に必要な造形表現の基礎を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 場やテーマに合った見やすく魅力的な掲示物を作る。</li> <li>2) 子どもたちとの遊びの場で活用できる折り紙を作る。</li> <li>3) 保育の場で活用できる色の効果や配色について理解し活用できる。</li> <li>4) 装飾表現としてのコラージュ、切り絵、パステル、立体カードについて理解し活用できる。</li> <li>5) 壁面装飾の可能性について理解し、子どもの造形活動を生かした壁面装飾を作る。</li> </ol> <p>(2)幼児の造形活動で使われることの多い表現技法や素材について指導者としての立場から検証する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 造形遊びの技法を体験する中で、指導者としての立場から材料の工夫や指導上の留意点などを導き出せる。</li> <li>2) 造形材料について、それぞれの特性について理解し、発達段階や活動に合わせて適材を選べるようになる。</li> </ol> <p>(3)グループ内のお互いの能力や個性を理解し、補い合いながら協力して造形活動ができる。</p>		
授業の概要	<p>保育者に必要な造形表現の基礎を身につけます。また、平面的制作の実技演習を行いながら、幼児の造形活動で使われる事の多い表現方法や素材について学び、指導者としての立場から検証を加え、その指導法について学びます。</p>		
授業計画			
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回： 幼児の遊びに活用出来る折り紙について</p> <p>第3回： 幼児と作る壁面制作について（春）</p> <p>第4回： 色について</p> <p>第5回： さまざまな表現技法について・・・コラージュ</p> <p>第6回： 折染めとマーブリング</p> <p>第7回： クレヨンとクレパス・・・スクラッチ</p> <p>第8回： 幼児と作る壁面制作について（夏）</p> <p>第9回： パステル</p> <p>第10回： さまざまな表現技法について・・・フロッタージュ</p> <p>第11回： 絵の具について</p> <p>第12回： にじみとデカルコマニー</p> <p>第13回： 切り紙</p> <p>第14回： 立体カードの仕組み</p> <p>第15回： バースデーカード</p>			

テキスト	使用しない
参考書・参考資料等	保育をひらく造形表現（萌文書林）
学生に対する評価	受講態度（20%）、課題提出（80%）による総合評価

授業科目名： 造形表現Ⅱ	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堀内 有子
			担当形態： 単独
科目	教科に関する科目（幼稚園教諭2種）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 図画工作		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)保育者に必要な造形表現の基礎を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 場やテーマに合った見やすく魅力的な掲示物を作る。</li> <li>2) 保育の場で活用できる色の効果や配色について理解し活用できる。</li> <li>3) 装飾表現としてのコラージュ、切り絵、立体カードについて理解し活用できる。</li> <li>4) 壁面装飾の可能性について理解し、子どもの造形活動を生かした壁面装飾を作る。</li> <li>5) 自らの造形活動を通して「造形嫌い」と「作る楽しさ」について理解し、子どもたちの楽しい造形活動を支えられるようになる。</li> </ol> <p>(2)幼児の造形活動で使われることの多い表現技法や素材について指導者としての立場から検証する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 造形遊びの技法を体験する中で、指導者としての立場から材料の工夫や指導上の留意点などを導き出せる。</li> <li>2) 造形材料について、それぞれの特性について理解し、発達段階や活動に合わせて適材を選べるようになる。</li> </ol> <p>(3)グループ内のお互いの能力や個性を理解し、補い合いながら協力して造形活動ができる。</p>		
授業の概要	<p>保育者に必要な造形表現の基礎を身に付けます。また、グループで協力して立体的制作の実技演習を行いながら、幼児の造形活動で使われる事の多い表現方法や素材について指導者としての立場から検証を加え、その指導法について学びます。</p>		
授業計画			
<p>第1回： オリエンテーション  第2回： 幼児と作る壁面制作について（秋）  第3回： ポリコレ①・・・変身衣装作り  第4回： 工作について  第5回： 粘土について  第6回： 油粘土  第7回： 軽量粘土で作るスイーツ  第8回： 幼児と作る壁面制作について（冬）  第9回： 人形劇のためのパペット作り①  第10回： 人形劇のためのパペット作り②  第11回： 人形劇のためのパペット作り③  第12回： 人形劇発表会  第13回： 段ボール工作①・・・ミニチュアハウス  第14回： 段ボール工作②・・・ミニチュアハウス  第15回： 作る楽しさについて</p>			

テキスト	幼稚園教育要領
参考書・参考資料等	保育をひらく造形表現（萌文書林）
学生に対する評価	受講態度（20%）、課題提出（80%）による総合評価

授業科目名： 保育内容＜音楽表現＞	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 橋 政愛
			担当形態： 単独
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・保育内容の指導法		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」の中で音楽が果たす役割について学び、幼児の表現活動をどのようにしたら引き出せるかを考察していく。また、さまざまな音楽表現の活動体験を通して、創作活動へと展開し、グループごとに発表する。		
授業の概要	領域「表現」のねらいと内容を理解し、豊かな感性と表現力を養い創造性をもって協同で表現できるようにする。 自らの能力を高めるために、音楽一般の教養を身に付け、楽器の個性および最低限の技術をマスターする。 協同での表現でも協調性をもって臨み、人前で表現することが喜びとなる。		
授業計画			
第 1 回： ガイダンス：領域{表現}を理解する 第 2 回： 簡単なリズム楽器から始め、打楽器について知る 第 3 回： 楽器を使った活動①：楽器の様々な奏法を知る 第 4 回： 楽器を使った活動②：幼児の合奏を楽しむ 第 5 回： 子どもの遊びや生活を豊かに育むための音楽活動 第 6 回： 幼児の発達に合わせた音楽表現とは 第 7 回： 歌い、動き、奏でる総合的な音楽表現の方法について 第 8 回： 音楽遊びやリズムを中心とする指導法を考える（グループワーク）①：課題提示と説明 第 9 回： 音楽遊びやリズムを中心とする指導法を考える（グループワーク）②：指導法の考案と作成 第 10 回： グループで音楽表現活動を創作する①：話し合いと計画、創作 第 11 回： グループで音楽表現活動を創作する②：創作 第 12 回： グループによる発表 第 13 回： グループ発表について討論：よりよい活動になるための意見交換 第 14 回： 保育現場における音楽活動について 第 15 回： まとめと今後の課題 定期試験			
テキスト	幼児のための音楽教育（教育芸術社） 幼稚園教育要領		
参考書・参考資料等	特になし		
学生に対する評価	試験（70%）、受講態度（30%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 音楽実技	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田 伸枝・洞庭 容子 加藤 瑞恵・山崎 未貴 江上 規子
			担当形態： クラス分け
科 目	教科に関する科目（幼稚園教諭2種）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・音楽		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ技術の獲得と音楽理論の理解。</li> <li>・童謡の弾き歌いを中心に音楽に自ら親しみ、楽しさを味わう。</li> <li>・幼児の発達段階に応じて、音楽の楽しさが伝わるような実践ができる能力を養う。</li> </ul>		
授業の概要	<p>保育現場で音楽活動を行うために必要な歌唱、ピアノの基礎技術を習得する。学生個々の進度やレベルに合わせて個人レッスンをを行い、半期で童謡の弾き歌いを8曲以上修了する。</p> <p>幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容を理解し、保育の現場において役立つピアノ実技と音楽理論、指導法を習得する。</p>		
授業計画			
第1回： オリエンテーション おはようのうた 第2回： はをみがきましょう 第3回： さよならのうた 第4回： アイアイ 第5回： おもちゃのチャチャチャ 第6回： おんまはみんな 第7回： おばけなんてないさ 第8回： すうじのうた 第9回： 夕やけこやけ 第10回： やきいもグーチーパー 第11回： ドレミの歌 第12回： ジングルベル 第13回： お正月 第14回： 思い出のアルバム 第15回： まとめ 定期試験			
テキスト	幼児のための音楽教育（教育芸術社）		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 （各自の進度やレベルに応じて適宜紹介する）		
学生に対する評価	授業態度（30%）、小テスト（10%）、実技試験（60%）から総合的に評価する。		

授業科目名： ピアノ伴奏法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高田 伸枝・洞庭 容子 加藤 瑞恵・山崎 未貴 江上 規子 担当形態： クラス分け
科 目	教科に関する科目（幼稚園教諭 2 種）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・音楽		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードネームを理解し、基本的なコードの使い方を習得する。</li> <li>・保育現場でよく使用される子どもの歌の旋律に伴奏を付ける技術を習得する。</li> <li>・伴奏を付けることによってハーモニーを加え、幼児の音楽活動を豊かにする。</li> </ul>		
授業の概要	<p>保育現場における音楽指導上必要なコードネームによるピアノ伴奏法を学ぶ。学生個々の進度やレベルに合わせて個人レッスンおよびグループレッスンを行う。</p> <p>幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容を理解し、ピアノ伴奏法の基礎知識を学ぶことによって、保育現場で実践できる能力を培い、幼児の音楽活動に役立てる。</p>		
授業計画			
第 1 回： 音階のしくみ 鍵盤図と五線譜の関係 和音について 第 2 回： 主要 3 和音 CFG 第 3 回： ハ長調の主要 3 和音 CFGG <sub>7</sub> コード 第 4 回： ハ長調 CFGG <sub>7</sub> コードの曲を弾こう 第 5 回： イ短調の主要 3 和音 AmDmEE <sub>7</sub> コード 第 6 回： イ短調 AmDmEE <sub>7</sub> コードの曲を弾こう 第 7 回： 長調コードを短調コードの関係性と理解 第 8 回： CFGG <sub>7</sub> AmDmEE <sub>7</sub> コードの曲を弾こう 第 9 回： さまざまな伴奏パターンを学ぶ 第 10 回： ト長調の主要 3 和音 GCD コード 第 11 回： ト長調 GCD コードの曲を弾こう 第 12 回： ヘ長調の主要 3 和音 FB <sub>b</sub> C コード 第 13 回： ヘ長調 FB <sub>b</sub> C コードの曲を弾こう 第 14 回： さまざまな伴奏パターンを試す（自分でつける&弾き歌い） 第 15 回： まとめ 定期試験			
テキスト	プリント教材		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針		
学生に対する評価	授業態度（30%）、小テスト（20%）、実技試験（50%）から総合的に評価する。		



授業科目名： アンサンブル	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田伸枝・洞庭容子
			担当形態： 複数
科 目	教科に関する科目（幼稚園教諭2種）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・音楽		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤楽器や打楽器を使用して合奏することを通し、互いを聴き合うこと、他人との呼吸、音程、強弱のバランス等、アンサンブルの基本を学ぶ。</li> <li>・合唱をすることを通し、互いを聴き合うこと、他人との呼吸、音程、強弱のバランス等、アンサンブルの基本を学ぶ。</li> <li>・小アンサンブルと全体合唱、合奏の両方を経験し、両者の楽しさを知る。</li> <li>・絵本を題材に様々な楽器を使用して、物語、内容に沿った音づくりを行うことで表現力を養う。</li> <li>・幼児の発達段階に応じて、音楽の楽しさが伝わるような実践ができる能力を養う。</li> </ul>		
授業の概要	<p>保育現場で子ども達が表現しやすい楽器の奏法や扱い方を学び、それらを使ってグループで創作合奏をしたり、さらに全体合奏に取り組み発表をする。保育現場で歌われる歌について、発声、歌へのアプローチを学び、小アンサンブル・全体合唱に取り組み発表する。</p> <p>幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容を理解し、アンサンブルの基礎を学ぶことで、音楽的な感性や表現力を培い、幼児の音楽活動への理解を深める。</p>		
授業計画			
第1回：	アンサンブル演習Ⅰ（全体合奏）①（グループ創作合奏）① 幼児と楽器について		
第2回：	アンサンブル演習Ⅱ（合唱）① 保育現場における発声について		
第3回：	アンサンブル演習Ⅰ（全体合奏）②（グループ創作合奏）②		
第4回：	アンサンブル演習Ⅱ（合唱）② 保育現場における歌（1）		
第5回：	アンサンブル演習Ⅰ（全体合奏）③（グループ創作合奏）③		
第6回：	アンサンブル演習Ⅱ（合唱）③ 保育現場における歌（2）		
第7回：	アンサンブル演習Ⅰ（全体合奏）④（グループ創作合奏）④		
第8回：	アンサンブル演習Ⅱ（合唱）④ 保育現場における歌（3）		
第9回：	アンサンブル演習Ⅰ（全体合奏）⑤（グループ創作合奏）⑤		
第10回：	アンサンブル演習Ⅱ（合唱）⑤		
第11回：	アンサンブル演習Ⅰ（全体合奏）⑥（グループ創作合奏）⑥		
第12回：	アンサンブル演習Ⅱ（合唱）⑥		
第13回：	アンサンブル演習Ⅰ（全体合奏）⑦（グループ創作合奏）⑦ 発表会		
第14回：	アンサンブル演習Ⅱ（合唱）⑦ 発表会		
第15回：	アンサンブル演習Ⅰ・Ⅱ（全体合奏、グループ創作合奏、合唱）まとめ 定期試験		

テキスト	幼児のための音楽教育（教育芸術社）
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。 幼稚園教育要領 保育所保育指針
学生に対する評価	授業態度 20%、小テスト 20%、定期試験 600%

### 3、保育の本質・目的の理解に関する科目

授業科目名： 相談援助 I	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 早川 貴子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の本質・目的に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)保育と相談援助の関わりや必要性を学ぶ</p> <p>1) 相談援助の意味や過程等の基礎的事項を理解する。</p> <p>2) 保育士（相談援助者）として必要な相談援助の基礎を学ぶ。</p> <p>(2)保育士として相談援助を行なう際に必要な知識や技術を体験的に学ぶ。</p> <p>1) 相談援助者になるための心構えや態度、価値について学ぶ。</p> <p>2) 援助をする前提として押さえておくべき、子どもや保護者に生じる課題、それを解決するための社会的資源について検討する。</p>		
授業の概要	保育士や幼稚園教諭として子ども達やその保護者への支援に必要な相談援助の概念、方法・技術及び具体的展開について学ぶ。		
授業計画			
<p>第 1 回： 保育の相談援助</p> <p>第 2 回： 相談援助とは何か</p> <p>第 3 回： 相談援助の進め方と連携</p> <p>第 4 回： 相談援助者になるために（1）：自己覚知</p> <p>第 5 回： 相談援助者になるために（2）：他者理解</p> <p>第 6 回： 相談援助者になるために（3）：基本的態度、コミュニケーションスキル</p> <p>第 7 回： 相談援助者になるために（4）：記録①</p> <p>第 8 回： 相談援助者になるために（4）：記録②</p> <p>第 9 回： 中間の振り返り</p> <p>第 10 回： 相談援助を行う前に（1）：生活課題の把握①</p> <p>第 11 回： 相談援助を行う前に（2）：生活課題の把握②</p> <p>第 12 回： 相談援助を行う前に（3）：社会資源の把握①</p> <p>第 13 回： 相談援助を行う前に（4）：社会資源の把握②</p> <p>第 14 回： 振り返り</p> <p>第 15 回： まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	演習・保育と相談援助（株式会社 みらい）		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（40%）、試験（60%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 相談援助Ⅱ	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 早川 貴子 担当形態： 単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 環境		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)保育士として相談援助を行なう際に必要な知識や技術を体験的に学ぶ。</p> <p>1) 相談援助の過程を理解する。</p> <p>2) インテークからアセスメントまでの流れを理解する。</p> <p>3) アセスメントで明らかとなった子どもと保護者（家族）の課題やニーズに対して援助計画の作成の視点を学ぶ。</p> <p>4) 援助活動を評価することについて学ぶ。</p> <p>(2)相談援助者としての実践力を養う。</p> <p>1) 相談援助の知識や技術を用いて、現場で出会う仮想事例を検討する。</p>		
授業の概要	相談援助Ⅰ を踏まえ、保育におけるソーシャルネットワークの応用と事例分析を通して子どもや保護者の理解を深める。		
授業計画			
第1回： 相談援助の過程 (1)：インテークとアセスメント① 第2回： 相談援助の過程 (2)：インテークとアセスメント② 第3回： 相談援助の過程 (3)：援助計画① 第4回： 相談援助の過程 (4)：援助計画② 第5回： 相談援助の過程 (5)：実施、その評価① 第6回： 相談援助の過程 (6)：実施、その評価② 第7回： 事例検討の意義と方法 第8回： 事例検討 (1) ショート事例① 第9回： 事例検討 (2) ショート事例② 第10回： 事例検討 (3) 児童虐待 第11回： 事例検討 (4) 児童養護施設 第12回： 事例検討 (5) DV 事例 第13回： 事例検討 (6) 障害受容 第14回： 事例検討 (7) まとめ 第15回： まとめ 定期試験			
テキスト	演習・保育と相談援助（株式会社 みらい）		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（40%）、試験（60%）から総合的に評価する。		

#### 4、保育の対象の理解に関する科目

授業科目名： 子どもの保健 I	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 皆川 まり
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の対象の理解に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)子どもの特性について理解する。 1) 子どもの健康について理解している。 2) 子どもの成長について理解している。 3) 子どもの精神発達について理解している。 4) 子どもの運動発達について理解している。 (2)子どもによくみられる疾患や事故について理解する。 1) 感染症について理解し予防方法についても理解している。 2) 疾患発症に際して適切な対処ができる。 3) 事故の予防について理解し、発生時に適切な対処ができる。 (3)心肺蘇生について正しく理解し、行うことができる。		
授業の概要	子どもの健康と保健について理解する。子どもの発育・発達について理解する。子どもに多い疾患と事故について理解し、その対処方法について学ぶ。		
授業計画			
第 1 回： 子どもの健康と保健の意義 第 2 回： 子どもの発育と発達 第 3 回： 子どもの発育と発達 第 4 回： 子どもの発育と発達 第 5 回： 子どもの発育と発達 第 6 回： 子どもの発育と発達 第 7 回： 子どもの食事 第 8 回： 子どもの食事 第 9 回： 子どもの食事 第 10 回： 子どもの生活環境 第 11 回： 子どもの生活環境 第 12 回： 子どもの生活環境 第 13 回： 子どもの生活環境 第 14 回： 子どもの精神保健 第 15 回： 環境 第 16 回： 保育の多様化 第 17 回： 新生児 第 18 回： 健康と病気、異常 第 19 回： 健康と病気、異常 第 20 回： 健康と病気、異常 第 21 回： 事故と応急処置 第 22 回： 事故と応急処置 定期試験			

授業計画	
第 23 回： 感染症と予防接種 第 24 回： 乳幼児期の病気 第 25 回： 乳幼児期の病気 第 26 回： 乳幼児期の病気 第 27 回： 乳幼児期の病気 第 28 回： 乳幼児期の病気 第 29 回： 母子保健の現状、母子保健行政 第 30 回： まとめ 定期試験	
テキスト	子どもの保健（診断と治療社）
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	受講態度 50%、定期試験 50%

授業科目名： 家庭支援論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 早川 貴子
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の対象の理解に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)家庭、家族とは何か 家庭の機能について理解する。</p> <p>1) 家庭、家族とは何かについて学ぶ。</p> <p>2) 家族支援の必要性について学ぶ。</p> <p>(2)子育て家庭を支える地域の社会資源や具体的な子育て支援の取り組みに関する知識を身につける。</p> <p>1) 子育てを取り巻く環境としての家庭、地域社会の今日の状況や子育て上の問題について理解する。</p> <p>2) 子育て家庭を支える資源や取り組みについて学ぶ。</p> <p>(3)社会的状況の変化をふまえ、求められる子育て支援のあり方について考える力を養う。</p> <p>1) 保育者による家庭支援、子育て支援施策、次世代生育支援施策の推進について理解する。</p> <p>2) 特別な配慮を要する家庭についての知識を得る。</p>		
授業の概要	<p>家庭、家族の概念や機能、現代の子育て家庭の状況など、家庭支援が必要となっている背景を学ぶ。その上で、家庭支援の社会資源や子育て支援の具体的な取り組みについて学び、具体的な家庭支援の理念や方法について学習する。</p>		
授業計画			
<p>第1回： 家庭支援とは</p> <p>第2回： 家族・家庭とは</p> <p>第3回： 家族の発達</p> <p>第4回： 家庭支援の必要性</p> <p>第5回： 現代の家庭における人間関係</p> <p>第6回： 家庭生活を取り巻く社会的状況</p> <p>第7回： 特別の支援を必要とする家族とその支援①</p> <p>第8回： 特別の支援を必要とする家族とその支援②</p> <p>第9回： 特別の支援を必要とする家族とその支援③</p> <p>第10回： 子育て家庭を支える社会資源</p> <p>第11回： 子育て支援政策、次世代育成支援施策の推進</p> <p>第12回： 保育者が行う家庭支援の原理</p> <p>第13回： 保育所入所による家庭支援</p> <p>第14回： 地域の子育て家庭への支援</p> <p>第15回： まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	児童の福祉を支える子ども家庭支援論（萌文書林）		
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	授業態度（10%）、課題（40%）、試験（50%）から総合的に評価する。		

授業科目名： 教育相談	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田 伸枝 担当形態： 単独
科 目	教職に関する科目（生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論 及び方法		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育相談の重要性を理解し、教育相談に必要な知識や技術を習得する。</li> <li>・教育相談の役割と特徴を理解し、教育相談の方法と基礎理論を学ぶ。</li> <li>・子どもや保護者をめぐる多様な課題を多面的に理解するとともに、適切な支援方法を学ぶ。</li> <li>・幼児にみられる具体的な問題についての知見を深め、特別な配慮が必要な発達障害等についても理解を深める。</li> </ul>		
授業の概要	<p>保育現場において保育者は、子ども達や保護者・地域からの相談に応じることが求められるようになってきている。</p> <p>教育相談の意義や目的を理解し、教育相談の知見から保育の実践者として不可欠な知識、技術について学習、習得する。</p>		
授業計画			
<p>第1回： 教育相談の在り方</p> <p>第2回： 保育所・幼稚園における教育相談</p> <p>第3回： 乳児期の発達理解と相談・支援</p> <p>第4回： 幼児期・学童期・思春期の発達理解と相談・支援</p> <p>第5回： 保護者への対応</p> <p>第6回： 子育て支援</p> <p>第7回： 発達障害① LD 学習障害 特徴とその支援</p> <p>第8回： 発達障害② ADHD 注意欠如多動症 特徴とその支援</p> <p>第9回： 発達障害③ 自閉スペクトラム症 特徴とその支援</p> <p>第10回： 発達障害を持つ子どもの保護者へのかかわり</p> <p>第11回： 子どもの発達とアセスメント</p> <p>第12回： カウンセリングの基礎理論</p> <p>第13回： カウンセリングの基本事項</p> <p>第14回： カウンセリングの技法</p> <p>第15回： ふりかえりとまとめ</p> <p>第16回： 保育におけるコンサルテーション</p> <p>第17回： 人的資源・社会的資源との連携</p> <p>第18回： 保育者の相談活動</p> <p>第19回： 教育相談を介した園内・園外との連携</p> <p>第20回： 体験学習・実習観察報告書作成</p> <p>第21回： 体験学習・実習観察報告発表 ① 相談支援について</p> <p>第22回： 体験学習・実習観察報告発表 ② 発達障害及び気になる子どもについて</p> <p>第23回： 対人関係のトレーニング ① 基礎的対人関係とは</p> <p>第24回： 対人関係のトレーニング ② トレーニングの実践</p> <p>第25回： 幼児・児童における諸問題 ① 習癖</p> <p>第26回： 幼児・児童における諸問題 ② 不登校・いじめ</p> <p>第27回： 幼児・児童における諸問題 ③ 虐待・ネグレクト</p> <p>第28回： 事例検討 保護者からの相談 ① 子育ての悩み</p>			



第29回：事例検討 保護者からの相談 ② 就学に向けて 第30回：まとめ 定期試験	
テキスト	子どもの理解と保育・教育相談（株式会社みらい） はじめて学ぶ発達心理学 乳幼児を中心に（大学図書出版）
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
学生に対する評価	授業態度・課題提出（40%）、試験（60%）から総合的に評価する。

## 5、保育の内容・方法の理解に関する科目

授業科目名： 社会的養護内容	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村 武光 担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	(1)到達目標 ①授業で学んだことを文章で、的確に表現することができる。 ②授業で学んだことを使って、友達と対話や交流ができる。 ③書物を読み、実践のヒントとなることをつかめる。 (2)テーマ ①児童養護施設では、どのような実践が行われているか？ ②保育所・小中学校では、そのような実践が行われているか？ ③「子ども理解」とは、どういうことか？ ④「専門性」とは、どういうことか？		
授業の概要	(1)授業の方法 ①実践分析、講義と傾聴 ②感想の交流 ③小論文を書く (2)留意点 ①リアルな子どもの状況がわかる文章を用意する。 ②交流では友達の発言を注意深く受け止める。 ③自分自身の率直な感想をだいにする。		
授業計画			
第1回： 家庭支援とは 第2回： 家族・家庭とは 第3回： 家族の発達 第4回： 家庭支援の必要性 第5回： 現代の家庭における人間関係 第6回： 家庭生活を取り巻く社会的状況 第7回： 特別の支援を必要とする家族とその支援① 第8回： 特別の支援を必要とする家族とその支援② 第9回： 特別の支援を必要とする家族とその支援③ 第10回： 子育て家庭を支える社会資源 第11回： 子育て支援政策、次世代育成支援施策の推進 第12回： 保育者が行う家庭支援の原理 第13回： 保育所入所による家庭支援 第14回： 地域の子育て家庭への支援 第15回： まとめ 定期試験			

テキスト	「生きづらさ」をささえる本（言視舎） 授業のプリントを用意します。
参考書・参考資料等	関連のあることをのせた教科新聞を発行しますのでよく読んでおいてください。
学生に対する評価	期末筆記試験（50%）、小論文と感想の表明・傾聴（50%）

授業科目名： 保育相談支援		教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅見 優哉
		担当形態： 単独		
科 目		専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	保育相談支援の意義と原則への理解を深める。特に、さまざまな保育場面、 保育形態における保護者支援の内容や具体的方法を理解する。			
授業の概要	テキストを用いながら、各回の授業で設定された課題に取り組む。課題は ロールプレイング、ディスカッション、小レポートなどである。			
授業計画				
第1回： ガイダンス 保育相談支援の意義及び目的 第2回： 現代社会の子育て環境への理解 第3回： 保育士の専門性を生かした支援 第4回： 保育相談支援の実際① 保育相談支援のポイント及び過程 第5回： 保育相談支援の実際② 相談支援事例のポイント及び過程 第6回： 子どもの最善の利益の重視 第7回： 保護者とのパートナーシップ 第8回： 特別な対応を要する家庭への支援 第9回： 保護者のエンパワメント 第10回： 信頼関係を基本とした関わり 第11回： 保護者に伝わる保育指導 第12回： 保護者支援の方法と技術 第13回： 保護者支援の記録と評価 第14回： 保護者支援の内容 第15回： 保護者支援の計画立案と実施 定期試験				
テキスト	保護者養成シリーズ 保育相談支援（一藝社）			
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価	受講態度（30%）、課題提出・表現技術（40%）、試験（30%）を総合評価			

授業科目名： 教育・保育方法論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 田口 賢太郎
			担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）		
授業の到達目標 及びテーマ	講義をもとに、VTR などを用いつつ、保育と保育方法について学ぶ。		
授業の概要	<p>本校儀は幼児教育・保育の基本的な方法について理解するため、次の 4 点 を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育のねらいを達成するために必要な指導および援助方法の基本を理解する。</li> <li>2. 様々な保育形態の特質を把握し、「環境を通して」行われるそれぞれの保育実践に相応しいケースと方法の適切性を理解する。</li> <li>3. 子どもの発達と個別の姿を踏まえ、遊びとその援助について、方法の基礎を理解し実践的応用の仕方を提案することができる。</li> <li>4. 幼稚園におけるコンピュータ利活用の実際について理解し、具体的な場面で活かすための実際例を提示することができる。</li> </ol>		
授業計画			
<p>第 1 回： イントロダクション：講義概要の説明、授業の方法、入門的な保育方法の話題提示  第 2 回： 保育とは何か？方法を巡って  第 3 回： 保育方法の前提 1 保育の仕組みの独自性、「教育」・「授業」との違い  第 4 回： 保育方法の前提 2 「環境」について知る  第 5 回： 保育方法の前提 3 「遊ぶ」を様々な形で捉えなおす  第 6 回： 保育方法の実践 1 集団保育と個別の対応  第 7 回： 保育方法の実践 2 保育形態論  第 8 回： 保育方法の実践 3 年齢とケースに応じた保育のあり方  第 9 回： 保育方法の実践 4 子どもの発達を捉える  第 10 回： 保育方法の実践 5 実践と反省について PDCA サイクル  第 11 回： 保育方法の実践 6 配慮を要する子どもへの保育の事例  第 12 回： メディアの利用と保育 1 メディア利活用のメリット・デメリット  第 13 回： メディアの利用と保育 2 メディア利活用の事例研究①アプリ開発  第 14 回： メディアの利用と保育 3 メディア利活用の事例研究②メディアリテラシー  第 15 回： まとめ、保育方法という考え方</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	小テスト（70%）、学習参加態度（20%）、提出課題（10%）を定期試験に替え、総合的に評価する。		

## 6、教職実践演習

授業科目名： 保育・教職実践演習	教員の免許取得のための 必修科目		単位数： 2単位	担当教員名： 船田 鈴子	
				担当形態： 単独	
科目	専門教育科目（保育の内容・方法に関する科目）				
科目区分	教職に関する科目（教職実践演習）				
履修時期	2年次前後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数	45人				
教員の連携・協力体制	主に3名の教員が担当する。受講者をグループ分けして指導するなどの場合は、5人の教員でグループ毎に研究指導する。				
授業の到達目標及びテーマ	<p>(1)保育者として身につけるべき資質能力とは何かを明確に理解する。  (2)保育に関する諸問題についてあらゆる角度から分析し、その問題を解決するための方策を提案したり実践する。</p> <p>1) 保育者として必要な資質能力について理解している。  2) 自らの課題を発見し、解決に向けて行動できる。  3) 保育に関する諸問題を多面的に捉えることができる。  4) 保育者として必要な資質能力を習得している。</p>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が身に付けた資質能力が保育者として最小限必要な実践的指導力として有機的に統合され、形成されたかについて確認をする。この科目を履修するまでに履修科目の状況を踏まえて、教職に就く者としての身に付けるべき必要な力や、自己課題を発見し、課題解決に励み、即実践力としての力量を高める。</li> <li>・ 保育に関わる諸問題を整理しながら、それぞれの問題への総合的理解を深めるために、受講生全員自らが取り上げる課題について、調査、分析、考察、検討を加え、問題解決能力を身につける。さらに、そのような研究の成果を論文としてまとめたり、研究発表したりすることで、総合的な学びの方法論を習得する。</li> </ul>				
補完指導	履修カルテを参照し、個別に補完的な指導を行う。				
授業計画					
第1回： 保育・教職実践演習の進め方及びこれまでの学修の振り返り					
第2回： 教職の意識と役割及び職務内容についての確認					
第3回： 保育に関わる諸問題の整理（1）ブレイン・ストーミング					
第4回： 保育に関わる諸問題の整理（2）ロール・プレイング					
第5回： 保育に関わる諸問題の整理（3）ディスカッション（問題構造の理解）					
第6回： 保育に関わる問題の研究（1）保育に関わる問題を探究することの意義について講義					

- 第7回： 保育に関わる問題の研究（2） 研究テーマの選定方法について講義・グループ討論  
 第8回： 保育に関わる問題の研究（3） 研究テーマの類型化毎にグループ討論①  
 第9回： 保育に関わる問題の研究（4） 研究テーマの類型化毎にグループ討論②  
 第10回： 保育者に求められる基本的技能・資質についてのグループ討論  
 第11回： 模擬授業  
 第12回： 模擬授業  
 第13回： 保育者として必要な知識技能の確認  
 第14回： 前期のまとめ  
 第15回： 前期の当該科目の学修の確認  
 第16回： 幼稚園教諭による講演「幼稚園教諭の生活と実際」  
 第17回： 豊かな人間性の保持・教育の原理や方法についての知識、保育内容などの指導力についてグループ討論  
 第18回： 豊かな人間性の保持・教育の原理や方法についての知識、保育内容などの指導力についてグループ討論  
 第19回： 幼児理解の確認（1）・・・グループに分かれて事例研究・討論①  
 第20回： 幼児理解の確認（2）・・・グループに分かれて事例研究・討論②  
 第21回： 幼児理解の確認（3）・・・グループ毎に事例研究の結果についてまとめ発表  
 第22回： 幼稚園教諭の職務内容についてグループ討論・ロールプレイング  
 第23回： 相談活動（子育て支援）についてグループ討論・ロールプレイング  
 第24回： 保育に関連する諸問題から個々の研究テーマを選定し、研究を深め論文としてまとめる  
 第25回： 研究発表  
 第26回： 研究発表  
 第27回： 研究発表  
 第28回： 研究発表  
 第29回： 研究発表  
 第30回： まとめ・保育・教職実践演習の総合所感

テキスト	アカデミック・スキルズ（慶応義塾大学出版会） 幼稚園教育要領 保育所保育指針
参考書・参考資料等	最新保育資料集 2011（ミネルヴァ書房）
学生に対する評価	受講態度、補完指導、グループ討論、実技指導、授業中に課す各種課題、研究論文の内容および発表等を踏まえ、保育者として最小限必要な資質、能力が身についているかを確認し総合評価を行う。

<実 習>



## 7、保育実習

授業科目名： 保育実習Ⅰ	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石井久美子・浅見優哉 担当形態： 複数
科 目	専門教育科目（保育実習）		
＜保育実習＞			担当：石井久美子
授業の概要	実習生としての必要な基本的な学びを踏まえて、実習において理論と実践の統合を図れるようにする。また、乳幼児にかかわる上で必要な適切かつ具体的な支援方法、態度について学ぶ。		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習についての基本的な理論の学びを踏まえ、保育士として必要な資質、知識や技術を習得することを目的とする。また、保育士としての職務内容・専門性について理解を深める。		
授業計画			
<p>保育実習Ⅰの目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①保育の一日の流れを理解し、子どもの名前を覚え参加する。</li> <li>②事前に学習した子どもの発達を参考にして、実際に子どもの様子を見て、理解を深める。</li> <li>③保育士と子どもの関係を学ぶ。</li> <li>④子どもの活動に対して、様々な環境の中で具体的にどんな援助をしているのかを（食事や排泄・遊び・昼寝・着脱・清潔など）学ぶ。</li> <li>⑤誉めるとき、叱るとき、集中させるとき、子どもの要求に対するとき等、具体的にどのような態度、表情、言葉を掛けて援助しているかを学ぶ。</li> <li>⑥健康・安全・疾病予防への配慮について理解する。</li> </ul> <p>2月に保育実習Ⅰ（観察・参加：12日間、90時間）を指定された園で行う。</p> <p>※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。</p>			

＜施設実習＞		担当：浅見優哉
授業の概要	実習は保育所以外の児童福祉施設（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、情緒障害児短期治療施設、重症心身障害児施設、児童自立支援施設等）で行う。	
授業の到達目標 及びテーマ	保育所とは違う種別の児童福祉施設において実習し、各々の施設の機能や社会的な役割、また施設保育士としての役割を理解する。	
授業計画		
<p>施設実習の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①実習先の施設の役割・機能について理解する。</li> <li>②一緒に行動したり業務を手伝ったりして具体的にその施設の児童へのかかわり方について学ぶ。</li> <li>③それぞれの施設の児童について正しく理解する。</li> <li>④児童福祉施設における保育士の役割・職務内容を理解する。</li> <li>⑤職種間連携やチームプレーが児童への育ちへどのようにつながっているのか理解する。</li> </ul> <p>3月～9月に保育所とは種別の違う施設において（観察、参加及び指導実習：12日間、90時間以上）、指定された園で行う。</p> <p>※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。</p>		
テキスト	幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 保育所保育指針 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版）	
参考書・参考資料等	適宜プリント配布	
学生に対する評価	受講態度・提出物・試験（40%）・実習日誌の記録・実習園の評価（60%）から総合的に評価	

授業科目名： 保育実習Ⅱ	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石井 久美子 担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育実習）		
授業の概要	乳幼児の実際にかかわりながら、理論と実践の統合を深めていく。子どもの姿・実態、保育者の支援方法などをよく観察し、実際に保育指導計画を立案して責任実習を行う。保育実習Ⅱは原則として保育実習Ⅰとは異なる園で行う。		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習Ⅰでの保育実践経験を踏まえて、更なる知識や技術の向上に努め、保育者に必要な資質や能力の向上を目指す。また、職員間や保護者・地域との連携、子育て支援、安全管理などについて実践的に学び、保育所の多様な機能や役割についての理解を深める。		
授業計画			
<p>保育実習Ⅱの目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの名前を覚え、積極的に遊びの仲間に入り、ありのままの子どもの姿を知り、子どもを理解する。</li> <li>②健康、安全のための環境、整備を子どもの具体的な活動（食事、排泄、昼寝、着脱、清潔、遊び）との関連で学ぶ。</li> <li>③基本的な生活習慣や社会的習慣の指導について、各々の場面に合った指導の仕方を学び、保育士として必要な資質、能力を養う。</li> <li>④園の指導計画（年間計画・月案）などを把握して、やってみたい内容を考えたうえで担当者と相談し、ねらい、場面の構成、留意点を考えて指導案を作成し、実施・評価を受ける。（事前に担当者の助言、指導を必ず受ける。）</li> <li>⑤施設の許可があれば調理室の実習を行う。</li> <li>⑥家庭と地域の実態にふれ、支援や連携のあり方について学ぶ。</li> </ol> <p>8 月末～9 月にかけて、保育実習Ⅱ（観察・参加・部分・責任：12 日間、90 時間）を指定された園で行う。</p> <p>※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。</p>			

テキスト	幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 保育所保育指針 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版）
参考書・参考資料等	適宜プリント配布
学生に対する評価	受講態度・提出物・試験（40%）・実習日誌の記録・実習園の評価（60%） から総合的に評価

授業科目名： 保育実習指導Ⅱ	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石井 久美子 担当形態： 単独
科 目	専門教育科目（保育実習）		
授業の到達目標 及びテーマ	実習事前指導においては保育実習Ⅰでの反省を踏まえ、保育実習Ⅱでの学びがより深められるよう、指導計画の立案や実践力を高めるための知識や技術の向上に重点を置いて行う。また実習事後指導では実習を振り返り、自己課題を明確にすること。さらに、保育観を確立していくための学びを行っていく。		
授業の概要	既学習を踏まえ保育実践力を培い、保育士の専門性や職業倫理について理解すること、保育について総合的に学ぶことを目的とする。また、事前事後指導を通して、自己課題を明確にし保育に対する認識を深める。		
授業計画			
第1回： 授業ガイダンス、保育実習Ⅱの意義と目的 第2回： 保育所の多様な機能と役割／保育所における子育て支援と地域との連携 第3回： 保育所・幼稚園・小学校との連携 第4回： 個別・集団に応じた適切なかかわり／保育者同士の連携 第5回： 保育の実践技術を生かした保育実践 第6回： 保育指導計画の立案・作成①（責任実習・・・主活動） 第7回： 保育指導計画の立案・作成②（責任実習・・・全日） 第8回： 保育の観察、記録、自己評価 第9回： 保育士の専門性と職業倫理 第10回： 事後指導における実習の総括と自己評価① 第11回： 事後指導における実習の総括と自己評価② 第12回： 事後指導における実習の総括と自己評価③ 第13回： 事後指導における実習の総括と自己評価④ 第14回： 課題の明確化と保育観の確立 第15回： まとめ 定期試験			

テキスト	実習まるごとガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版） 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型子ども園教育・保育要領」 （平成 29 年度告示）
参考書・参考資料等	適宜プリント配布
学生に対する評価	受講態度・課題提出（40%）、試験（60%）の総合評価

## 8、教育実習

授業科目名： 教育実習	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 船田鈴子・森川みゆき 担当形態： 複数
科 目	教職に関する科目（教育実習）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教職実習		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習について理論的な学びを踏まえ、幼児の生活や遊びの場面に関わることを通して、教育者としての愛情や使命感を深める。</li> <li>・実際に幼児に関わる体験を積み、教育者になるにあたっての実践的能力や適性を考えると共に研究課題を明らかにする。</li> </ul>		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2)各領域や教職に関する専門的な知識、技術などを実際に実践することができるための基礎を身につける。</p> <p>1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、意欲的に実習に参加することができる。</p> <p>2) 実習を通して幼児の実態を観察し、事実即して記録することができる。</p> <p>3) 実習指導教諭の補助的な役割を担い、担任の役割や職務内容について理解している。</p> <p>4) 幼教要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し保育を実践したり、様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。</p>		
授業方法			
<p><b>【学外実習】教育実習の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 幼児との生活を通して、幼児を理解する。</li> <li>② 授業で学んだことと実践との統合を図る。</li> <li>③ 幼稚園教諭の職務を理解し、その役割の一端を経験する。</li> <li>④ 具体的な指導技術を習得する。</li> <li>⑤ 幼稚園教諭としての自覚をもつ。</li> </ul> <p>以上の項目について2年次前期に2週間（教育実習Ⅰ、観察・参加）、2年次後期に2週間（教育実習Ⅱ、参加・部分・責任）の実習を指定された園で行う。</p> <p>原則として教育実習Ⅰ・Ⅱは同じ園で行う。</p>			

**【事前指導】**

実習を円滑に行うために以下の通り事前指導を行う。

**【授業計画】**

## 前期（1年次）

- 第1回： 幼稚園教育の現状と課題
- 第2回： 教育実習の概要
- 第3回： 教育実習の目的と方法
- 第4回： 教育実習の内容とねらい
- 第5回： 幼児理解（ビデオより現場の観察と考察①）
- 第6回： 幼稚園の教育課程と指導計画
- 第7回： 実習記録の目的と必要性
- 第8回： 指導案の目的と指導案作成のプロセス
- 第9回： 見学、観察実習のねらいと方法
- 第10回： 参加実習のねらいと方法
- 第11回： 責任（部分・全日）実習のねらいと方法
- 第12回： オリエンテーションの方法と手続きについて
- 第13回： 実習中の心構えと手続きについて
- 第14回： 実習中に予想される問題について
- 第15回： 幼稚園の実際：先輩教諭による講演「幼稚園教諭の一日」・まとめ

## 後期（1年次）

- 第1回： 実習に向けての心構え
- 第2回： オリエンテーションの準備
- 第3回： 実習に必要となる具体的な書類、持ち物等の準備
- 第4回： 実習生に求められる幼児との適切な関わり方①
- 第5回： 実習生に求められる幼児との適切な関わり方②
- 第6回： 保育観察の方法（事例を通して－①）
- 第7回： 保育観察の方法（事例を通して－②）
- 第8回： 実習日誌の意義と必要性
- 第9回： 実習日誌の具体的な取り方①
- 第10回： 実習日誌の具体的な取り方②
- 第11回： 実習日誌の具体的な取り方③
- 第12回： 指導案の意義と実際
- 第13回： 指導案の立て方（部分）
- 第14回： 指導案の立て方（全日）
- 第15回： 教育実習を終えた先輩（2年生）の実習体験談を聞く→グループ討論  
試験



テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版） 幼稚園教育要領解説
参考書・参考資料等	プリント教材
学生に対する評価	実習園の評価（40%）、実習記録（20%）、受講態度・課題提出・試験 （40%）から総合的に評価

授業科目名： 教育実習	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 船田鈴子・森川みゆき 担当形態： 複数
科 目	教職に関する科目（教育実習）		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 教職実習		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育実習について理論的な学びを踏まえ、幼児の生活や遊びの場面に 関わることを通して、教育者としての愛情や使命感を深める。</li> <li>・ 実際に幼児に関わる体験を積み、教育者になるにあたっての実践的能 力や適性を考えると共に研究課題を明らかにする。</li> </ul>		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2)各領域や教職に関する専門的な知識、技術などを実際に実践すること ができるための基礎を身につける。</p> <p>1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、意 欲的に実習に参加することができる。</p> <p>2) 実習を通して幼児の実態を観察し、事実即して記録することがで きる。</p> <p>3) 実習指導教諭の補助的な役割を担い、担任の役割や職務内容につい て理解している。</p> <p>4) 幼教要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し保育を実 践したり、様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。</p>		
<p><b>【学外実習】 教育実習の目的</b></p> <p>① 幼児との生活を通して、幼児を理解する。</p> <p>② 授業で学んだことと実践との統合を図る。</p> <p>③ 幼稚園教諭の職務を理解し、その役割の一端を経験する。</p> <p>④ 具体的な指導技術を習得する。</p> <p>⑤ 幼稚園教諭としての自覚を持つ。</p> <p>以上の項目について 2 年次前期に 2 週間（教育実習Ⅰ、観察・参加）、2 年次後期に 2 週間（教育実習Ⅱ、参加・部分・責任）の実習を指定された園で行う。 原則として教育実習Ⅰ・Ⅱは同じ園で行う。</p>			
<p><b>【事前、事後指導】</b></p> <p>実習を円滑に行うために以下の通り事前、事後指導を行う。</p>			

【授業計画】

前期（2年次）

- 第1回： 教育実習の要点の確認
- 第2回： 本実習に向けての心構えと準備
- 第3回： 教育実習の理解
- 第4回： 教育実習Ⅰ（本実習）指定された園にて実習（2週間）
- 第5回： 実習を終えて（振り返りが意味すること）
- 第6回： 実習全体の自己評価（個別指導）
- 第7回： 実習の反省と学び① 個々の反省と課題と発見
- 第8回： 実習の反省と学び② 園の役割や教育の特色
- 第9回： 実習の反省と学び③ 子どもとの関わりや保育技術
- 第10回： 実習の反省と学び④ グループでの話し合い
- 第11回： 実習中に多い悩みや疑問について①グループで話し合い
- 第12回： 実習中に多い悩みや疑問について②発表、まとめ
- 第13回： 実習の振り返りと自己評価
- 第14回： 教育実習Ⅱに向けての自己課題について（個人面接）
- 第15回： 授業のまとめ

後期（2年次）

- 第1回： 本実習に向けての心構えと準備
  - 第2回： 責任実習に向けて（実習時期の園生活について）
  - 第3回： 教育実習Ⅱ（本実習）指定された園にて実習（2週間）
  - 第4回： 実習を終えて（振り返りが意味すること）－（個別指導）
  - 第5回： 実習全体の自己評価－（個別指導）
  - 第6回： 実習の反省と学び①個人の反省と課題
  - 第7回： 実習の反省と学び②実習記録や指導案の書き方の確認（個々の実習記録、指導案を使って）→グループ討議
  - 第8回： 実習の反省と学び③子どもとの関わりや保育技術の確認（事例を通して）→グループ討議
  - 第9回： 実習の反省と学びのまとめ（グループ毎に発表）
  - 第10回： 実習の振り返りと自己評価①ワークシート
  - 第11回： 実習の振り返りと自己評価②個人面接
  - 第12回： 教育実習Ⅰ、Ⅱ（2回の本実習）を通しての学びと今後の課題
  - 第13回： 実習報告会の準備（原稿作り）
  - 第14回： 実習報告会（1年生も参加）
  - 第15回： 授業のまとめ
- 定期試験

テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 保育者養成実習事後学習（大学図書出版） 幼稚園教育要領解説
参考書・参考資料等	プリント教材
学生に対する評価	実習園の評価（40%）、実習記録（20%）、受講態度・課題提出・試験（40%）から総合的に評価